











# 石籍叢書

石籍學會

第六十號

川都三八二號

明治四十一年三月十五日發行(每月一回十五日)



最高研究所圖書館  
文庫 3044  
昭和57

最高研究所圖書館  
826826  
57





石精叢書

川都三六二號

明治四十一年三月十五日發行(每月一回十五日)

石精學會

號六十第



826826

57



○戶籍叢書內容一覽

戶籍法實用

ハ戶籍親族相續ニ關スル通牒其他ノ實例新例等ヲ根  
據トシ常ニ最新例ヲ類集シテ戶籍事務取扱方ヲ詳述  
シタルモノナリ

舊慣例集

ハ民法施行前ノ舊慣例ヲ施行當時ヨリ遡ホリテ編年  
的ニ類集シタルモノナリ

人事判例集

ハ民法施行後ノ大審院判決ヲ編年のニ類集シタルモ  
ノナリ

外國婚姻令集

ハ英米獨佛其他外國ノ法令中婚姻ニ關スルモノヲ摘  
譯シテ類集シタルモノナリ

戶籍法令大全

ハ戶籍法ニ關係アル諸法令ヲ戶籍法ノ規定順序ニ類  
集編纂シタルモノナリ

戶籍法實用

第六十二  
第一  
第二



第十六號目次

い 頁數

第五十八條 ..... 二二九

第五十九條—第六十一條 ..... 二三一

第六十二條 ..... 二三七

民事訴訟法實用

最高裁判所圖書

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

本條ハ届出人カ代理人ヲ差出スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノナリ

一本條ハ第五十四條ニ依リ口頭届出ヲ爲サントスル者カ疾病其他ノ事故ニ因リ

自ラ出頭スルコト能ハサル場合ノ規定ニシテ書面ヲ以テ届出ヲ爲スニハ郵便

ニ依ルモ差支ナシ

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ疾病其他事故アルトキニ限り代理人ヲ差出スコトヲ得然レトモ民法第七百七十五條ノ場合ニ於テハ疾病其他事故アルトキト雖モ代理人ヲ差出スコトヲ得ス第九十四條第百一條第百八條第百十三條

戸籍法上ノ届出ハ本條ノ事由ナキニ於テハ必ス各條規定ノ届出人又ハ第四十六條ノ法定代理人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要シ届出ニ關シ委任代理人ヲ認メサル

第四章 身分ニ關スル届出 第五十八條

い 二二九



モノトス

二本條ニ依リ代理人ヲ差出スニハ代理人タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ書面即チ委任狀ヲ差出サシムヘシ若シ委任狀ヲ提出セサルトキハ届出ヲ受理スヘカラス

本條ニ依リ届出人カ委任狀ヲ以テ代理人ヨリ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ第三十三條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ其届書ヲ他ノ戶籍吏ニ送付スヘキモノナルトキト雖モ委任狀ハ代理人カ出頭シタル戶籍吏ニ差出スヲ以テ足ル

三本條ニ依リ代理人ニテ届出ヲナス場合ニハ一人ニテ數人ノ代理人トナルコトヲ得ス

本條ニ依リ代理人ヲ差出サントスルトキハ届出人ニ代リテ其行爲ヲ爲スニ適當ナル能力ヲ有スル者ヲ以テ代理人ト爲スヘキモノトス

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲ス

コトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一ヶ月内ニ本籍地ノ戶籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ



受取リタル届書ハ又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第五十九條乃至第六十一條ハ外國ニ在ル日本人ノ届出方並ニ其届書類ノ取扱方ヲ規定シタルモノニシテ即チ第五十九條ハ外國ニ於ケル駐在公使領事ニ届出ヲ爲シ得ルコトヲ規定シ第六十條ハ外國ニ於テ證書ヲ作ラシメタル場合ニ其證書ノ謄本ヲ差出サシムルコトヲ規定シ第六十一條ハ公使領事並ニ外務大臣ノ届書發送方ヲ規定セリ

第一 外國在留者ノ届出方

一 第五十九條ニ「外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本人ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得」トアリ本條ニ依ルトキハ凡ソ在外日本人ハ其身分ニ關スル届書ヲ各本籍地ノ戶籍吏ニ爲スヲ原則トシ便宜上其地

ノ領事ニ爲シ得ルモノニシテ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ届出ルト其地ノ領事ニ届出ツルトハ全ク届出人ノ任意ニ因ルモノトス故ニ領事カ届出ヲ受ケタルトキハ必ス之ヲ受理セサルヲ得ス届出人ニ對シ本籍地戶籍吏ノ方へ届出ヨト命スルコトヲ得ス

第二 領事ノ届書調査

一 領事カ第五十九條ニ依リ届出ヲ受理スルハ戶籍吏ノ受理スルト同様ナルヲ以テ届書カ法令ニ違反セサルヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス  
二 領事館ニ於テハ管轄区域内ニ在留スル日本人ノ戶籍簿ハ勿論完全ナル身分登記簿ノ備付ナシ故ニ届出アリタル場合ニ於テ法律ニ規定スル事項ヲ調査スルニハ唯届出人ノ供述ニヨリ取調ヘタル上規定ニ違背セサルモノト認タルトキハ其届出ヲ受理スル外ナシ  
果シテ然ラハ其届書記載ノ事項カ是迄數々前例アリタル如ク本籍地ノ戶籍簿又ハ身分登記簿ニ照ラシ事實相違ノ點アルヲ發見シタルトキハ領事ヘノ届出ハ無効ニ屬スルモノニ非ス其相違點ヲ訂正セシムルトキハ其届書ハ始



メヨリ有效ナルモノト認ムヘシ

第三 第六十一條ノ届書送付方

- 一 第六十一條ノ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ送付ストハ婚姻ノ場合ニ例セハ其届書ハ外務大臣ニ於テ夫ノ本籍地入夫、婿養子ニ付テハ妻ノ本籍地ヘ二通ノ届書ヲ共ニ送付スヘク夫及ヒ妻ノ雙方ノ戸籍吏ニ各別ニ送付スヘキモノニアラス第六十一條ハ各本條ニ定メタル届出地ヲ本籍地ニ制限スルノ趣旨ナリ
- 二 明治三十九年勅令第百六十七號ニ依リ統監ヨリ身分ニ關スル届書又ハ證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ受理シ第六十一條ニ依リ外務大臣ヨリ此等ノ書類ノ送付ヲ受ケタル場合ノ例ニ準シ身分登記及ヒ戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ
- 三 第五十九條、第六十條ノ規定ニ依リ爲シタル届書ハ第六十一條ニ基キ外務大臣ヨリ本籍地戸籍吏ニ發送スヘキ規定ナルモ官制上届書ノ發送ハ通商局長ノ名ヲ以テスルモ差支ナシ

第四 届書ノ訂正方

- 一 第六十一條ニ依リ外務省ヨリ送付シタル外國ニ在ル本邦人ノ身分ニ關スル届書ニ姓名、年齢等錯誤アルトキハ届出人ヲシテ之ヲ訂正セシムル爲メ錯誤ノ廉ヲ詳記シ外務省ヘ返戻スヘシ
- 二 第五十九條ニ依リ外國ニ在ル日本人カ其國ニ駐在スル日本ノ公使又領事ニ届出ヲ爲シ而シテ外務大臣ヲ經テ本籍地戸籍役場ヘ該届書送付シ來リタルニ戸籍ト符合セス訂正ヲ要スル場合ハ届書ノ訂正ニ付キ戸籍吏ト届出人トノ間ニ直接ノ往復ヲ爲スコトヲ得ス但清國及ヒ韓國ニ限り外務省ヲ經由セス直ニ公使領事ト往復ヲ爲スハ妨ナシ



第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ  
發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス  
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届  
出義務者力裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前裁判力  
確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨ  
リ之ヲ起算ス  
本條ハ届出期間ノ計算方ヲ規定シタルモノナリ  
第一 届出期間ノ起算  
一 期間起算方ハ其當日ヨリ起算スルモノニテ民法第四百十條ノ規定ヲ準用ス  
ヘキモノニ非ス  
二 期間ノ定メアル届出事件ハ本法ノ規定ニ依リ届出義務ノ發生シタル日ヨリ  
起算スヘキモノニ付届出義務ノ發生シタル時間ハ之ヲ届出ツルニ及ハス  
本法ノ規定ニ因リ事實ヲ知リタル日ヨリ一定ノ期間内ニ届出ツヘキ事件ニ

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ

發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届

出義務者力裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前裁判力

確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨ

リ之ヲ起算ス

本條ハ届出期間ノ計算方ヲ規定シタルモノナリ

第一 届出期間ノ起算

一 期間起算方ハ其當日ヨリ起算スルモノニテ民法第四百十條ノ規定ヲ準用ス  
ヘキモノニ非ス

二 期間ノ定メアル届出事件ハ本法ノ規定ニ依リ届出義務ノ發生シタル日ヨリ  
起算スヘキモノニ付届出義務ノ發生シタル時間ハ之ヲ届出ツルニ及ハス  
本法ノ規定ニ因リ事實ヲ知リタル日ヨリ一定ノ期間内ニ届出ツヘキ事件ニ



付キ其事實ヲ知リタリヤ否ヤヲ定ムルハ事實問題ナリ故ニ適宜ノ方法ニ依リ一應ノ調査ヲ爲スヘシ

指定後見人ノ就職届出期間ハ遺言執行ニ因リ後見人ニ指定セラレタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算スヘク選定後見人ノ就職届出期間ハ選任セラレタルコトヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算スヘシ選定後見人ハ親族會ニ於テ後見監督人ヲ選定スヘキニ付キ別ニ其手續ヲ爲ス爲メ親族會ノ招集ヲ裁判所ヘ請求スルニ及ハス又法定後見人ト雖モ民法第九百十一條第一項ノ手續ヲ爲シタル後ニ非サレハ未成年者ニ代リ入籍届ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

三 本法實施前ニ發生シタル届出事件ニシテ其届出期間實施後ニ跨ルトキハ本法施行ノ日ヨリ届出期間ヲ起算スルヲ相當ス

第二 届出期間ノ滿了

期間ノ末日カ休日ナルトキト雖モ期間ハ其日ニ滿了スルモノトス

第三 一ヶ月ノ計算

本法中一ヶ月ノ期間ハ各條ノ趣旨ニ依テ自ラ解釋ヲ異ニスヘシ例ヘハ第三十

八條ノ場合ニ於テハ其月始メノ日ヨリ末日マテヲ意味スト雖モ届出ノ期間ヲ計算スルニハ三十日トスヘシ

戶籍法ニハ期間計算方ニ關スル別段ノ規定ナキニ付キ民法ノ規定ニ依ルヘキモノニ非ス普通ノ例ニ依リ三十日ヲ以テ一ヶ月ト爲ス趣旨ト解スヘシ但第三十八條ニ一ヶ月毎ニトアルハ各月ノ初日ヨリ末日マテト解スルヲ相當トス

第四 許可事件ノ届出期間ノ計算

一口頭ヲ以テ身分登記變更許可ノ裁判ヲ告知シタルトキハ其届出期間ハ本條第二項ニ依リ裁判ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算スヘク隨テ届出義務者ハ許可ノ裁判アリタル上ハ第百六十八條ニ依リ身分登記變更ノ申請ヲ爲ササルヘカラス

二 氏名及ビ族稱ノ變更等管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添付シテ届出ツヘキモノ、届出期間ハ許可書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算スヘキモノトス







第十六號目次

(明治二十四年分)

一	父生存中離婚シタル母ノ入籍	三〇五
二	庶子男ト嫡出女トノ間ニ於ケル相續順位	三〇六
三	家族タル母ノ迎夫	三〇六
四	幼年女戸主ノ迎夫(女婿ト爲ス爲メニスルモノ)	三〇七
五	亡弟ノ遺妻ト兄トノ婚姻	三〇七
六	弟ト兄トノ縁組	三〇八
七	妹ト姉トノ縁組	三〇八
八	分家戸主ノ養嗣子貰受	三〇九
九	失踪中ノ養父ノ相續權	三〇九
十	戸主死亡後ニ於ケル幼女ノ廢嫡	三一〇
十一	母ノ分家	三一〇
十二	女子ノ相續權	三一〇
十三	尊屬親ヲ相續人ニ定ムルコト	三一〇
十四	尊屬親ノ解	三一〇
十五	失踪戸主ノ遺兒ノ他家へ養子縁組	三一〇
十六	同廢家ノ上他家へ養子縁組	三一〇
十七	廢戸主ノ事由	三一〇
十八	妻ノ稱スヘキ氏	三一〇
十九	隱居ノ手續	三一〇

十七	家族ノ後見	三一六
十八	戸主ノ他家へ養子縁組	三一七
十九	同他家ノ相續	三一七
二十	復籍シタル二男ノ相續權	三一七
二十一	庶子ノ入ルヘキ家	三一八
二十二	同母ノ家へ入籍	三一八
二十三	同續柄記載方	三一八
二十四	養父母ノ後妻後夫ノ呼稱(繼父母)	三一九
二十五	庶子ノ母ノ家へ養子縁組	三一九
二十六	同母ノ家ノ相續	三一九
二十七	同母ノ家へノ入家	三一九
二十八	同續柄(繼父)	三二〇
二十九	隱居ノ手續	三二〇



埼玉縣問合 (二十四年六月二十三日)

一、父ノ離縁セシ實母(他ヨリ嫁シタルモノ)ヲ父死亡後現戸主タル其子侍養ノ爲メ  
家族ニ編入スルコトハ聽許スヘキ例ニ有之候處右ハ父ノ生存ト死亡トニ由テ  
許否ノ區別有之義ト存候得共若シ其父他ヘ養子入夫又ハ分家等ノ爲メ戸籍上  
存在セサルトキハ死亡ノ場合ト同視シ其母ノ入籍ヲ許可シ得ヘキ義ト相心得  
然ルヘキ哉果シテ然ラハ父タルモノ其妻ヲ離婚シ其身直ニ他ニ入籍スヘキ場  
合ニ於テハ戸主ノ願出ニ依リ其母ヲ依然家族ニ据置クコトヲ得ヘキ哉

一、前項父ノ他ヘ入籍セシ爲メ其母ヲ家族ニ入籍セシムルトキハ其父離縁復籍ノ  
場合ナシト限ラサルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ父母同籍セシメ然ルヘキヤ

民事局回答 (二十四年六月二十七日)

第一項 父生存中戸主ノ母ハ家族ニ入籍スルコトヲ得サルモノトス

第二項 前項ニテ御了知有之度

香川縣伺内務省ヨリ合議 (二十四年六月三十日)

舊慣例集 二十四年分



嫡出ノ女子ト庶出男子ト相續順序ノ義ニ付去ル十八年二月中山口縣伺へ内務省御指令ノ趣モ有之候處右相續權ハ必スシモ庶出ノ男子ニ歸スヘキモノニシテ假令一家經營上等ノ都合ニ依リ親族協議ノ上嫡出ノ女子へ相續願出ル場合ト雖モ正當ノ事故廢篤疾等アルニ非サレハ聽許スヘキ限リニ無之義ト相心得可然哉果シテ然ラハ該女子ハ當然相續權ヲ有セサルモノニ付無論廢嫡ノ手續ヲ經ス其儘送入籍爲取扱可然哉

指令内務司法 (二十四年七月十六日)

伺ノ通

但其家ノ血統ヲ繼續セシメンカ爲メ戸主及親族協議ノ上出願ノ場合ニ限り女子ヲ以テ相續人トナスモ不苦義ト心得ヘシ

山口縣伺内務省ヨリ合議 (二十四年八月八日)

第一條 戸主其母へ後夫ヲ迎フルハ戸主幼少ニシテ相當ノ後見人無之ヨリ母へ後夫ヲ迎へ後見爲致等ノ事情アルモノハ許可シ可然ト相考候處壯年ノ戸主ト

雖モ其身病弱等ヨリ母若クハ繼母へ後夫ヲ迎へ家事補助爲致度願出ルトキハ家督ヲ讓ルニアラス依然戸主ノ儘ニテ繼父ヲ貰受ケ不苦哉

指令内務司法 (二十四年八月二十一日)

第一條 伺ノ通

山口縣伺内務省ヨリ合議 (二十四年八月八日)

第二條 縁女ヨリ夫ト爲ス可キ男子ニ對シテハ稱呼無之ヲ以テ幼少ノ女戸主夫トス可キモノヲ迎ヘントスルモ稱呼無之ヨリ入籍スルノ途ナシ此場合ニ於テハ先代ノ養子トシテ貰受ケ其身縁女ト相成ル義ハ差支無之ヤ

指令内務司法 (二十四年八月二十一日)

第二條 伺ノ通

島根縣伺 (二十四年八月十九日)

亡兄ノ遺妻其弟ト結婚ノ義ハ至重ノ事故アルモノニ限り明治十六年十一月二十



日乾戸第三二〇號内務卿訓示ニ據リ可伺出義ニ候處亡弟ノ遺妻其兄ト結婚ノ義モ同様ノ義トハ存候得共該訓示ニ明文無之ニ付及御問合候

民事局回答 (二十四年八月二十九日)

右亡弟ノ遺妻其兄ト結婚等ノ如キ凡ソ倫理上ニ關スルモノハ亡兄遺妻ト結婚同様事實ヲ具シ御伺出ノ上許可相成ヘキ義ト思考ス

長野縣問合 (二十四年七月九日)

弟ヲ以テ兄ノ養子トナシ妹ヲ姉ノ養女ト爲ス場合ニ當リ許否ノ義ニ付去ル二十年七月七日附甲庶第五一號本縣伺ニ對シ同年九月十六日附ヲ以テ許可スヘキモノトスト御指令相成タレトモ最前伺出ノ旨趣詳悉セサル爲メ尙ホ疑義ニ涉リ候ニ付更ニ左ノ廉々及御問合候

一、凡ソ戸籍上出願ヲ要スルモノハ無籍者就籍誤謬訂正又ハ相續權ニ關係アルモノ其他異例ニ屬スルモノ等ニ有之弟ヲ以テ兄ノ養子トナシ妹ヲ以テ姉ノ養子ト爲スカ如キハ單ニ其續柄ヲ變更スルニ止ルモノナレハ別段出願セシムルニ

不及ヤ

一、退隱後分家ノ戸主本家他家ヲ問ハス其實孫外孫ヲ貫受ケ養嗣子ト爲ス場合モ前項ト同シク出願セシムルニ不及哉

民事局回答 (二十四年九月七日)

右ハ御見込ノ通出願セシムルニ及ハサル義ト思考ス

東京府伺 (二十四年七月十日)

失踪中ノ養父モ戸主ヲ讓リ養子タル戸主離縁復籍スルコトヲ得サル義ハ先般御指令ノ次第モ有之候處茲ニ養子戸主ニシテ養父母ヲ有スル者アリ而シテ其養父ハ失踪中ナルモ養母トノ間折合惡ク若クハ其養子不身持ニシテ離縁セントスルニ方リ跡目ヲ養母ニ相續セシムルハ穩ナラサル義ニモ有之斯ノ如キ場合ニ於テハ失踪中ナルニモ拘ハラズ養父ヲシテ再相續セシムルヨリ致方無之ト被存候

指令 (二十四年九月十九日)

失踪中ノ養父ニ相續セシムルハ相成ラス但養子戸主離縁復籍スル場合ニ於テ養



父失踪後十ヶ月經過ノ上親族協議出願セハ養母ニ相續セシムルハ苦ラス

島根縣伺 (二十四年七月二十五日)

茲ニ戸主死亡シ跡ニ女子二人アリ依テ之ニ掣養子ヲ迎ヒ相續セシムルカ又ハ長女ヲシテ家督セシムヘキハ當然ニ候處該女子孰レモ幼稚ニシテ且相當ナル養子追テ女子ニ配無之尤該家ニ相應資産ヲ有スル商業者ニシテ猶後見人トナルヘキモノナキニアラス然レトモ俄然女子ノ名義トナシ後見人等ヲシテ諸取引ニ從事セシムルトキハ忽チ營業ニ不信用ヲ來シ隨テ不利益トナルノ恐アルヲ以テ實女子ヲ廢嫡シ亡戸主ノ弟ヲシテ家名相續セシメ先代ノ名ヲ襲用爲致度旨親族協議願出ルモノ有之候處右ハ明治九年六月太政官第五十八號達ニ準據シ地方官限り聽許不苦哉

指令 (二十四年九月二十一日)

女子幼稚ナリト雖モ廢嫡スヘキモノニアラス

德島縣照會 (二十四年九月十一日)

女戸主夫ヲ迎ヒ又ハ養子貰受候節ハ速ニ戸主可相讓答ノ處爰ニ某ノ母ニ男携帶分家セントスルモノアリ其次男ハ目下他ノ雇人トナリ遠國ニ寄留中ニシテ營業上ノ都合モアリ一家ノ整理難相成旨ヲ以テ分家女戸主ノ義願出ル者アリ右ハ許可セサルモノト思量候得共類例モ無之ニ付及御問合候

(本件相續人ヲ定メ母分家スルヤ否ノ義照會ノ未當時長男戸主ニシテ更ニ母ノミ分家戸主トナルノ趣回答アリ)

總務局長回答 (二十四年九月二十六日)

右ハ母直ニ分家戸主タルコトヲ得ル義ト思考ス

茨城縣伺 (二十四年九月二十四日)

婦女子相續之義ハ當主死去跡嗣子無之已ムヲ得サル事情アリテ養子難致モノ、外ハ許可スヘカラサル成規ノ處爰ニ戸主死亡遺族ハ亡戸主ノ父ト妻ト女子ナリ該女子ヘ掣養子ヲ迎ヒ相續セシメントスルモ不得止事情アリ養子難致故右父ヲ



シテ再相續ヲ爲サシメントスルモ是亦齡既ニ七十有餘ノ老衰者ニシテ朝夕ノ起居スラ自由ナラサル程ノモノニ有之候ヘハ到底一家ヲ維持スル不能不得已女子ヲシテ死跡相續ノ義出願スルモノ有之如斯ハ本廳限リ許可可然義ニ候ヤ

指令 (二十四年九月三十日)

伺ノ通

岩手縣伺 (二十四年九月二十八日)

別紙内務省ヨリ熊本縣ニ對スル甲號指令ヲ以テ見レハ卑屬親タルモノ豫メ尊屬親ヲ相續人ニ取据置クコトヲ得ル義ニ候處同省ヨリ滋賀縣ニ對スル乙號指令ニ依レハ右ノ如キハ不相成趣ニ相見ヘ前後相違致居候自然前指令ヲ取消シタルモノナラント推考セラレ候就テハ豫メ尊屬親ヲ相續人ニ取据置クハ不相成義ト心得可然哉

指令 (二十四年十月五日)

明治十七年二月二十日滋賀縣伺同年三月七日内務省指令ノ通心得ヘシ

(乙號) 滋賀縣伺

戸主ノ弟ヲ以テ豫メ相續人ト定メ置候義其相續人ト定ムヘキ事由有之モノハ聽許ヲ與ヘ可然ト存候得共其尊屬ノ親祖父母父母伯叔父母兄等ニ至リテハ戸主退隱又ハ死亡ノ節其家ニ相續人無之場合ニ於テ該家ヲ繼承スルハ格別ナルモ右等尊屬親ヲ以テ卑屬親タルモノ、相續人ト豫メ定置候義ハ難聞届義ト相心得候得共爲念相伺候也

内務省指令

伺ノ通

滋賀縣伺 (二十四年九月二十六日)

戸主失踪中赤貧ニシテ遺兒養育方ニ差支候ニ付失踪者ノ家名ハ其儘存置シ該遺兒廢嫡ノ上他ヘ養嗣子ニ送籍致度旨願出ルモノ許否ノ義ニ付明治二十年十月八日愛知縣ヨリ貴省ヘ伺出候處失踪者ノ跡相續ヲナスヘキモノナルヲ以テ難聞届旨御指令相成候趣承知致候然ルニ右ハ遺兒一人ノミアル場合ヲ指シタルモノト



思考セラレ候ニ付若シ遺兒數人有之場合ニ在リテハ其長男ヲ他ヘ養子等ニ差遣ハサントスルモ一般癡嫡者ノ例ヲ以テ差許シ不苦候ヤ且亦遺兒一人ノミ存スルトキト雖モ其遺兒ニシテ癡疾不具等ノ爲メ到底其家名相續ノ見込無之モノナルカ又ハ前記愛知縣伺ノ如キモノト雖モ其遺兒ヲ他ノ養子女トナストキハ本人ノ爲メ將來ノ幸福ト認ムル場合ニ在テハ共ニ他ヘ送籍ノ義聞届不苦義ト相心得可然哉

但戸主失踪中遺族者他ヘ送籍シ戸主ノミ在籍スルトキハ遺族者送籍ノ日ヨリ單身戸主失踪跡ヲ以テ取扱可然哉

指令 (二十四年十月七日)

失踪戸主ノ遺兒ハ失踪者ノ跡相續ヲ爲スヘキモノニ付他ニ養子女ト爲スハ不相成但遺兒一旦相續ノ上廢家シ失踪者(父母)ヲ携帶他家ノ養子女トナルハ親族協議出願セハ聽許苦ラス

岩手縣伺 (二十四年九月三十日)

戸主タルモノ多病ナルカ又ハ身持放蕩ニシテ家事擔當セシメ難キトキ又ハ失踪二十四ヶ月ヲ經過スル等ハ不得止場合ニ於テ親族協議廢立出願スルトキハ聽許シ差支ナキ義ニ候處右等ノ事故アルニ非ス單ニ生計ノ目的ナキカ爲メ本人ノ情願ニヨリ後見人及親族連署廢戸主ヲ出願スルモノ有之右ハ生家相續セルモノト養家相續セルモノトヲ問ハス其家貧窮等不得止事情アルモノハ聞届可然ヤ

指令 (二十四年十月二十一日)

伺ノ通

愛知縣照會 (二十四年十月十三日)

婦女人ニ嫁スルモ仍ホ所生ノ氏ヲ用ユヘキ舊慣ニ有之候處往々嫁家ノ姓ヲ用ユルモノ有之右ハ生家孰レモ用ユルモノ不苦候哉

總務局長回答 (二十四年十月二十一日)

右ハ婦女人ニ嫁スルモ夫家ヲ相續シ若クハ分籍シタル場合ノ外ハ仍ホ生家ノ氏ヲ用フヘキモノト思考ス



佐賀縣伺 (二十四年十月十六日)

一、士族平民ノ戸主疾病之外他ノ事故ニテ隱居之義ハ年齢ニ拘ハラス本人ノ存意ニ任セ市町村長へ届ニ止メ可然哉

指令 (二十四年十月二十三日)

第一項 伺ノ通

東京府伺 (二十四年十月十日)

幼年ニシテ家督ヲ相續シタルモノニハ明治六年第二十八號布告ニ據リ必ス後見ヲ附セシメ候モ家族ノ幼年ナルモノニ付テハ右等ノ制法モ無之ニ依リ是迄慣習ニ仍テ假令ヒ其後見ヲ届出ル者アルモ承諾不致事ニ取扱來候處家族者ト雖モ既ニ財産ヲ所有スルコトヲ得ラレ候上ハ其保護ヲ要シ候ハ勿論ノ義ニ有之後見ノ必要ハ戸主家族ノ間決シテ相違ナカルヘキカト被考候ニ付キテハ爾來右後見ヲ届出ルモノ有之ニ於テハ之ヲ承認致候モ差支無之哉

指令 (二十四年十月三十一日)

家族者ニ後見ヲ附スル義ハ公認スヘキモノニ非ス

佐賀縣伺 (二十四年十月二十九日)

戸主事故有之其家ハ子女又ハ弟へ相續セシメ其身<sup>戸主</sup>ハ他家へ養子又ハ相續人トナル義ハ地方廳へ願出サセ許可スヘキ筋ニ候哉

指令 (二十四年十一月七日)

伺ノ通

宮崎縣伺<sup>内務省ヨ</sup> (二十四年十月二十四日)

第一項 茲ニ男女子數名ヲ有スル戸主アリ其二男分家又ハ他家養子トナリタル後長男死亡シ相續權ハ三男ニ移轉セリ然ルニ二男復籍シタルニ依リ其嗣子ト爲サントスルトキハ相續權ヲ有スル三男ハ勿論其他ノ男女子ハ總テ廢嫡ヲ要スヘキ筋ニ候ヤ

指令<sup>内務司法</sup> (二十四年十一月十日)



第一項 嗣子ト定メタルモノノミ廢嫡スヘシ

宮崎縣伺<sup>内務省ヨ</sup> (二十四年十月二十四日)

第二項 私生子ハ男子己レノ子ト認メ町村長ノ免許ヲ得タル上ハ縱令双方ノ情

願ト雖モ其儘婦女ノ籍ニ差置クヲ得サル義ニ候處一旦男子ノ籍ニ編入シタル

上ハ双方ノ情願ニ依リ婦女籍ニ送籍スルモ差支無之筋ニ候哉

第三項 前項若シ差支無之候ハ、戸籍上ニハ其婦女戸主ナルトキハ續柄ヲ記セ

ス家族ナルトキハ戸主ヨリノ續柄ノミヲ記シ共ニ入籍ノ理由等事故記載欄内

ニ登記スヘキ筋ニ候哉

指令<sup>内務</sup> (二十四年十一月十日)

第二項 伺ノ通

第三項 私生子ノ生母戸主ナルトキハ私生子ト額書シ家族ナルトキハ名<sup>母</sup>私生子ト肩書スヘシ其他伺ノ通

東京府伺<sup>内務省ヨ</sup> (二十四年十月十四日)

一、養子ヨリ養父母ノ後添ニ對シテハ元ヨリ繼父母ノ稱呼ナキ義ト被考候就テハ

戸籍ニハ單ニ養父誰後妻養母誰後夫ト記載スルノミニテ差支ナキヤ然ルトキ

ハ若シ其養父母ノ迎ヘタル後添養子ノ實父母ナルトキハ肩書ニ養父母誰後夫

妻ト記シ續柄ハ實父母ト記スヘキヤ

二、私生子ニシテ男子己ノ子ト認メテ其籍ヘ引取リタル後其生母ノ方ニ於テ相續

人トナサントスルモノアリ此場合ニ於テハ養子トシテ引取ルヘキヤ或ハ相續

人ノ名稱ニテ引取ルヘキヤ

三、右私生子如何ナル名義ニテ入籍スルモ其生母ニ對スル續柄ハ母ト記スヘキハ

勿論ナルヘキモ其生母ノ夫ニ對シ又夫ヨリ其私生子ニ對スル稱呼ハ如何記ス

ヘキヤ

指令<sup>内務</sup> (二十四年十一月十七日)

第一項 前段繼父母ト稱ス後段肩書ハ養父母名夫妻ト記ス續柄ハ伺ノ通

第二項 相續人又ハ養子トシテ入籍スルコトヲ得サルモノトス但親族入籍トシ



テ引取ルハ此限ニアラス

第三項 親族入籍トシテ引取リタル場合ニ於テ生母ニ對スル續柄ハ何ノ通生母ノ夫ニ對シテ繼父ト稱シ其私生子ニ對シテハ妻私生子ト稱スヘシ

岩手縣伺 (二十四年十一月十六日)

士族家督相續養子貫屬替等出願ニ及ハサル旨明治十二年二月中元太政官第八號ヲ以テ達セラレ候處別紙第一號及第二號ノ如ク本縣伺ニ對シ内務省指令有之ニ付五十歳以上ノ者隱居セントスルトキハ通常ノ届出ニ任シ五十歳未滿ノ者ニ至テハ疾病等ノ事故アルニ非サレハ難相成其事故アルモノハ出願セシムヘキ事トナシ取扱來リ候然ルニ明治十七年二月十五日同省ヨリ三重縣ニ對セル指令ニ依レハ五十歳未滿ノモノト雖モ事故ヲ詳記シ届出ルマテニテ差支ナク即チ本縣ヘ指令ノ趣意ト相違致居候右ハ三重縣ヘ指令ノ通ニテ差支ナキ義ニ候ハ、自今本縣ニ於テモ同様取扱度此段相伺候也

指令 (二十四年十一月二十一日)

明治十七年二月二十六日三重縣伺同年二月十五日内務省指令ノ通心得ヘシ

# 人事判例集



# 人事判例集

## 第十六號目次 (明治三十三年分)

は頁數

○ 民法施行前ノ廢嫡手續	一七一
○ 民法中「家ニ入ル」ノ解釋	一七六
民法施行前有效ナリシモ民法上無効ナルヘキ縁組ノ効力	

### ○ 民法施行前ノ廢嫡手續

(明治三十二年第二百五十二號明治三十三年一月二十五日第一民事部判決)

右當事者間ノ戸主名義取消相續權確認事件ニ付東京控訴院於明治三十二年九月二十八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ノ第一ハ上告人カ分家五十嵐直藏方ヘ養子送籍セラレタル當時既ニ丁年ナリシコトハ原院ノ認メタル所ナリ而シテ原院ハ廢嫡ヲ爲スハ被廢嫡者ノ承諾ヲ要スヘキ法則ナキヲ以テ云々ト説明シ家督相續人ノ承諾有無ニ關セス親族等ニ於テ自由ニ其權利ヲ剝奪シ得ルモノト判決セラレタレトモ既ニ丁年ニ達シタル家督相續人ノ地位ニ變更ヲ生スヘキ身分上ノ移動ヲ爲ス場合ニハ本人ノ承諾ヲ要スルハ事理ノ當然ナリ故ニ廢嫡者ノ承諾ヲ要セストノ法則ナキ以上ハ必ス其承諾ヲ要ス然ルニ原院ハ却テ承諾ヲ要スヘキ法則ナキヲ以テ其承諾ヲ要セ



スト判決セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用セラレタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ廢嫡ヲ爲ス可キ正當ノ理由アルニ於テハ本件廢嫡ノ當時タル明治六年頃ハ勿論現行法律ニ於テモ被廢嫡者ノ承諾ナシト雖モ廢嫡ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス。但シ原判文ニハ上告所論ノ如ク親族等ハ自由ニ其權利家督相續人ノ權利ヲ剝奪シ得ルモノト判示シタル點アルコトナシ故ニ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル濫ナシ

其第二ハ嫡子タル上告人ヲ養子送籍スルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ要スヘキコトハ被上告人モ之ヲ認メ當事者間ノ爭ハサル所ナリ而シテ上告人ハ分家直藏ノ實子ナリト云フノ理由ヲ以テ廢嫡シタリト主張シ原院モ亦之ヲ以テ廢嫡ノ正當理由ト判定セラレタレトモ本家五十嵐宗兵衛ノ長子トシテ戶籍簿ニ登録シ一旦取得シタル其權利ハ容易ニ之ヲ剝奪スルヲ得ス即チ這ハ廢嫡ノ正當理由ニアラス然ルニ原院カ之ヲ以テ廢嫡ノ正當理由ト認メタルハ不法ナリト云フニ在リ

然レトモ本件廢嫡ノ當時タル明治六年頃ニハ一旦養嫡子ト爲リタル者ヲ實家ノ

嗣子タラシムル爲メ親族ノ協議ヲ以テ復家送籍ヲ爲スノ例ナキニ非サリキ斯ル慣例アリタル以上ハ原院カ本件ノ廢嫡ヲ以テ正當ノ理由有リタルモノト認定スルモ敢テ不法ナリト云フヲ得ス

其第三ハ我國ニ於テハ大ニ長子權利ヲ重シ家督相續ノ事タル長子ニ專屬シ親ト雖モ之ヲ侵害スルヲ得ス從テ長男タルモノハ決シテ他家ニ養子トナスヲ許サ、リキ此ノ如クナルカ故ニ長男ヲ他家養子ト爲スニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ廢嫡ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ戶籍簿ニ記入シ長男ノ有スル家督相續人タル資格ヲ消滅シタルコトヲ證明シ來レリ本件ニ於テハ戶籍簿ニ廢嫡セラレタル旨ノ記入ナキヲ以テ見レハ廢嫡セラレサリシコト分明ナリ然ルニ原院ハ此事實ヲ度外ニ措キ廢嫡シタリト推定セラレタルハ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

然レトモ原院ハ甲第一號證及乙第一號證戶籍簿ノ謄本ニ依リ被上告家ヨリ上告家へ上告人ノ籍ヲ移シタル事實ヲ認メタリ斯ノ如ク戶籍簿ニ上告人送籍ノ記入アリテ廢嫡ノ記入ナキモ當時ノ法令ニ於テ廢嫡ノ記入ヲ命シタルコトナケレハ



他ノ事由ニ因リテ廢嫡ノ事實ヲ認メタレハトテ原判決ハ不當ニ事實ヲ認定シタリト謂フヲ得ス  
其第四ハ家督相續ハ總領ノ男子タルコト及其廢嫡ハ官ノ許可ヲ要スルコトハ明治六年第二十八號布告ヲ以テ始メテ制定セラレタルモノニアラス家督相續ノ長男ニ專屬スルコトハ我邦古來ノ慣行ニシテ一定動カサル成規タル故ニ該布告ノ趣旨タル一層之ヲ確メルニ過キサルコトハ布告文ノ全體ニ於テ分明ナリ況ンヤ該布告タル長男ヲ差措キ次男三男等ヘ相續セシムルトキハ其事ヲ詳ニシ願出ツヘシ  
トアルマテニシテ原院カ判定ノ如ク廢嫡ヲ爲スニ付官ノ許可ヲ要スルコトハ此法則ヲ以テ始メテ制定セラレタルノ趣旨ニアラス即チ法則ヲ不當ニ適用セラレタル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ  
然レトモ明治六年第二十八號布告以前ニ於テ特ニ華族ニ非サル者ノ家督相續ニ付キ必總領ノ長子タルヘシトノ法則ナキヲ以テ本論旨モ亦採用セス  
上告追加理由ハ原判決ハ理由不備ノ判決タル違法アリ抑モ廢嫡ヲナサンカ爲メ

ニハ重大且ツ適切ナル理由ナカルヘカヲサルハ我國古今一貫ノ慣例ニシテ新民法ニ明ラカニ廢嫡ヲ正當トスル理由ヲ制限列舉セリ然ルニ原判決ハ此ノ見易キ事理ト公正證書タル戶籍簿上ニ顯ハレタル法律上ノ身分ヲ藐視シテ上告人カ事實上五十嵐直藏ノ實子タルノ點ニ證據ヲ置キ其實子タル理由ヲ以テ直藏家ノ嗣子トスル爲メ廢嫡シタリト主張ハ廢嫡ヲナスニ正當ノ理由ナリト輒ク判斷シ致テ親族會ノ協議ヲ經由シタリヤ否ヤスヲ審究セス尙ホ當時既ニ丁年ニ達シタル上告人ノ承諾スラ之ヲ欠缺スルモ不可ナシト斷テ去リタルハタトヘ不文法時代ノ事實ニ懸レリトスルモ顯著ナル相續法上ノ原則ニ遵據セサル違法アルモノニシテ判決理由ヲ未段明治六年一月二十二日發布ニ係ル法律ノ精神ハタトヘ只偏ヘニ條理ニ背カス慣例ニ悖ラサランコトヲ期シタルニ過キサルモノナルモ猶溯及テ同年同月十五日ニ起生シタル事實ニ適用スルヲ得ストナセル原判決ニ於テ斯ル非法律的ナル斷案ヲ見ルハ彼是予盾ノ譏ヲ免レサルヘク將タ理由不備ノ違法アルヲ如何セン原判決ノ如ク戶籍簿上ハ自己正當ノ嫡子ナレトモ其實自己ノ長男ニ非ラサルヲ奇貨トシ被相續人一箇ノ了見ヲ以テ任意ニ相續權ヲ剝奪シ



他ニ送籍シ得トセハ我國家族制度ノ精神ハ沒了セラレ社會ノ秩序ハ放レテ復タ收拾スルニ由ナカラムト幸ニ今日ニ於テハ新民法炳トシテ存スルアリ斯患ナシトセンカ然ラハ乃チ假令十數年前ノ事實ニ關シ劃一ノ成規ナカリシトスルモ亦同一ノ判斷ヲ下スヘキハ論ヲ俟タス之ヲ要スルニ原判決ハ重要ノ點ニ於テ理由不備ニシテ違法アルヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

然レトモ民法施行法中民法ニ定ムル廢除ノ事由ニ非ラサレハ其施行前ニ係ル嫡子ノ原因トナスコトヲ得ストノ別段ナル規定ナキカ故ニ同法第一條ノ規定ニ依リ本件ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルヤ勿論ナリ其他本上告論旨ハ其採用スルコトヲ得サル旨ノ説明ヲ與ヘタル前掲ノ上告論旨ト重複スルモノナレハ更ニ其失當ナルコトヲ辯明スルノ要ナシト認ム

以上説明ノ如クナルヲ以テ本件上告ハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス

○民法中「家ニ入ル」ノ解釋

民法施行前有效ナリシモ民法上無効ナルヘキ縁組ノ效力

(明治三十二年(オ)二百六十六號明治三十三年二月八日第一民事部判決)

右當事者間ノ離縁復籍請求事件ニ付長崎控訴院カ明治三十二年九月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ違脱シ且ツ裁判ニ理由ヲ附セサル不法アリ本件上告人カ被上告人ニ對スル請求ノ原因ハ當事者間ニ於ケル養子契約ハ全ク虚偽ノ意思表示ナリシ故無効ナリト云フノ主旨タリシ事ハ控訴答辯書第七項控訴人ハ普通ノ養子ナリト申立レトモ普通ノ養子女ニアラスシテ被控訴人カ控訴人ノ脅迫ト奸計トニ陥リ一時假裝ノ養子女ノ登錄ヲ爲シタルコトハ證人井上常藏米村熊太阪本彦平ノ供述及ヒ第一審判決理由中ニ列記シタル條項ニ據テ明白ナリトノ申立及原判決ノ事實摘示ニ引用セラレタル第一審判決事實



ノ摘示中前略實印ヲ携ヘ取敢ヘス同村役場ニ至リ其ノ手續ヲ爲サントスルニ際シ恣ハ俄カニ言葉ヲ變シ雇人ニテハ代人難叶本件相濟ムマテノ處養子ノ名義ニ致シ置ク方便利ナラント申スニ付身持宜シカラス世ノ所謂潜リナル者ヲ拾萬圓ニモ及フ財産ヲ有スル原告ノ養子トナシテハ後日迷惑ヲ受クル事モ之レ有ルヘシト相考ヘ候得共差迫リタル困難モアリ(中略)恣ハ一笑シ證書ニモ及ヒ申サス色々御世話ニ相成ル上ハ決シテ虚言ハ申サス事件落着ノ上ハ直ニ履行スヘシ又彦平熊太モ自分共モ居ルコトナレハ虚約ハ致サセヌト申スニ付其儘ニ相成リトノ言論ヲ提出シタル事跡ニ徴シ明確ナリ然ルニ原判決ニ於テハ被控訴人ハ該養子ハ訴外人下田大五郎ト被控訴人トノ訴訟落着ヲ終期トシタル假ノ養子ナリト主張シ云々(中略)之レヲ以テ戸籍ノ登録ヲ經タル恣等ヲ假ノ養子ト推斷スルヲ得スト判斷シ上告人ノ主要ナル主張事實即チ所謂本件養子名義ノ戸籍登録ハ當事者ニ於テ眞實ノ意思表示ヲ爲セシモノニアラスシテ唯一時ノ便宜ヲ行フ爲メ全ク虚偽ノ意思表示ヲ爲セシモノタルカ故此ノ意思表示ハ全然無効タルヘキモノナリトノ主張事實ニ對シテハ全然之ヲ遺脱シ從テ之レカ當否ノ判斷ヲ付セサリシハ

法律ニ違背シテ事實遺脱シ併セテ裁判ニ理由ヲ附セサル不法アリト云フニ在リ然レトモ原院口頭辯論調書及ヒ準備書面ヲ調査スルニ本訴請求ノ原因ハ當事者間ノ養子縁組ハ虚偽ノ意思表示ナルカ故ニ無効ナリトノ文詞ヲ明掲シタル所アルヲ見サルノミナラス本論旨ニ援用シタル控訴答辯書第七項及ヒ第一審判決事實ノ摘示ニ掲ケタル事項ハ要スルニ其趣旨原判決ニ所謂該養子ハ云々假ノ養子ハ云々假ノ養子ナリト主張シノ意義ト異ナル所ナシ且ツ若シ上告人カ原院ニ於テ主張シタル前掲事項ノ趣旨ヲシテ果シテ本論旨ニ云ヘルカ如ク虚偽ノ意思表示ナルカ故ニ無効ナリトノ意義ナラシムルニ原院ハ此ヲ以テ假リノ養子ナリトノ趣旨ニ解釋シタルモノニシテ事實ハ判斷ニ外ナラス故ニ之ヲ以テ法律ニ違背シタルモノト云フヲ得ス之ヲ要スルニ本論旨ハ上告ノ理由トナラズ上告趣旨ノ第二ハ原判決ハ裁判ノ理由ヲ附セサル不法アリ控訴答辯書第七項及原院ニ於テ口頭辯論調書ノ記載ニ依レバ上告人ハ原院ニ於テ第一審判決ノ憑據ト爲リタル八項ノ事實即本件養子契約ニ關シテハ第一審雙方間ニ一人ノ媒酌人ナカリシコト等雙方間ノ親族ニスラ之ヲ協議セサリシコト第三養子タル縁組ノ略



式ヲモ擧ケサルコト第四恣及ヒ妻ツイハ養子女トシテ上告人家ニ同居セサリシ  
コト第五明治二十九年六月中訴外人下田大五郎ト原告人間ニ宅地建家買戻事件  
ニ關シテ御船區裁判所ニ訴訟提起アル迄原告被告間ニ養子女縁組ノ協議アリシ端  
緒ヲ觀ルヘキ證左ナキコト第六大五郎ト原告間ノ訴訟ニ於テハ原告深憂苦慮措  
ク能ハサル非常ノ悲境ニ陥リタルコト第七前記訴訟ノ起ルヤ咄嗟ノ間單ニ戸籍  
上ノミ被告恣及ヒ妻ツイ養子女ノ登録アリシコト第八其養子女ノ登録ニ關シ殊  
更ニ乙第一號ノ定約證成立シタリト主張スルコト以上八項ノ事實ハ以テ本件養  
子名義ノ戸籍登録カ虚偽ノ意思表示ナリシコトヲ推定スルノ基本タルコトヲ論  
證シ置ケリ然ルニ原判決ニ於テハ其第二第五第七第八項ノ各主張點ニ對シテハ  
果シテ何故ニ斯ル事情ノ存スルニ係ハラス上告人ノ主張ヲ適當ト認メラレサル  
ヤ毫モ其理由ヲ附スル處ナク本件請求棄却ノ判決ヲ付セラレタルハ裁判ニ理由  
ヲ附セサル不法アリト云フニ在リ

然レモ原院ハ上告人ノ提出シタル事項ニシテ主要ナルモノハ之ヲ排斥スル所以ノ  
理由ヲ説明シ以テ當事者ノ養子縁組ハ真正ニ成立シタルモノト判斷シタル理由

# 外國婚姻令集

〇五〇

第十六號日次



第十六號目次

獨逸領事裁判法

二百三十一

◎注意◎

爾來英國法ノ分ヲ掲載シ居リタルモ獨逸領事裁判法ハ立法上參考ト爲ルヘキ點點ナカラサルヲ以テ特ニ掲載スヘシトノ命ニ因リ本號ヨリ數次ニ之ヲ連載スルコトトシタレハ讀者宜シク之ヲ獨逸法ノ分ノ後ニ綴リ込マレタシ

外國裁判令集

○獨逸領事裁判法

(千九百年四月七日ノ法律)

目次

第一章	領事裁判權ノ範圍	自第一	至第三	條
第二章	裁判所ノ構成	自第四	至第八	條
第三章	法律ノ適用ニ關スル通則	自第九	至第十三	條
第四章	民法ニ關スル特別規定	自第十四	至第二十一	條
第五章	民事訴訟破産事件及ヒ非訟事件ノ手續ニ關スル特別規定	自第二十二	至第四十一	條
第六章	刑法ニ關スル特別規定	自第四十二	至第四十九	條
第七章	刑事裁判手續ニ關スル特別規定	自第五十	至第五十二	條
第八章	費用ニ關スル特別規定	自第五十三	至第七十六	條
第九章	末則	自第七十七	至第八十	條



天佑ヲ保有スル朕獨逸國皇帝普魯士國々王ウキルヘルム聯邦參議院及ヒ帝國議會ノ協賛ヲ經テ茲ニ帝國ノ名義ヲ以テ左ノ如ク制定ス

第一章 領事裁判權ノ範圍

第一條 領事裁判權ハ慣習若クハ條約ニ依リ其執行ヲ許サレタル地方ニ於テ之ヲ行フ

領事裁判權ハ聯邦參議院ノ協賛ヲ經タル勅令ニ依リ一定ノ地域内ニ於テ一定ノ法律關係ニ關シ其執行ヲ停止セラル、コトアルヘシ

第二條 左ニ掲クル者ハ領事裁判權ニ服ス

第一 獨乙臣民但領事裁判權ヲ執行スル地方ニ於テ國際法ノ一般ノ原則ニ從ヒ治外法權ヲ享有スル者ハ此限ニ在ラス

第二 外國人但其者ノ法律關係ニ關シ帝國宰相ノ命令ヲ以テ又ハ該命令ニ基キ獨乙國ノ保護ヲ受ケサルトキハ此限ニ在ラス(保護民)

帝國領土又ハ獨乙國保護領土内ニ住所ヲ有スル商事會社、既登記ノ組合並ニ法人ハ獨乙臣民(前項第一號)ト看做ス但法人ニ付テハ聯邦參議院ニ於テ又ハ從來



ノ規定ニ基キ聯邦ノ一ニ於テ權利能力ヲ附與シタルモノト雖トモ獨乙臣民ト看做ス領事裁判所管轄區域内ニ住所ヲ有シ且獨乙臣民ヲ以テ總無限責任社員トスル合名會社及ヒ合資會社モ亦同シ其他ノ商事會社既登記ノ組合及ヒ法人ハ外國人前項第二號ト看做ス

第二項前段ニ掲ケタル商事會社既登記ノ組合及ヒ法人ニシテ外國人ノ加入セラルモノニ對シテハ帝國宰相ノ命令ヲ以テ又ハ該命令ニ基キ之ヲ領事裁判權ニ服セシメサルコトヲ規定スルコトヲ得

第三條 軍事裁判權ハ本法ノ爲メニ變更ヲ受クルコトナシ

第二章 裁判所ノ構成

第四條 領事裁判所管轄區域ハ帝國宰相聯邦參議院ニ於ケル商事及ヒ通信審査委員會ノ諮詢ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 領事裁判權ハ領事千八百六十七年十一月八日ノ聯邦領事官官制第二條、領事裁判所及ヒ大審院ニ於テ之ヲ行フ

第六條 領事ハ特ニ帝國宰相ヨリ委任ヲ受ケタルトキ裁判權ヲ執行スルノ權ヲ

有ス

帝國宰相ハ領事ト共ニ又ハ領事ニ代ヘ他ノ官吏ヲシテ裁判權ノ執行上領事ノ行フヘキ職務ヲ擔任セシムルコトヲ得

第七條 領事ハ左ノ事件ニ付キ管轄權ヲ有ス

第一 裁判所構成法訴訟法及ヒ破産法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件

第二 帝國法律又ハ普漏士國ニ行ハル、普通州法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬

スル非訟事件

第八條 領事裁判所ハ裁判長タル領事及ヒ二名ノ陪席者ヲ以テ構成ス

刑事訴訟ニシテ參審裁判所<sup>シナエツフオン、グリヒト</sup>ノ管轄ニ屬セス又裁判所構成法第七十四條及ヒ第

七十五條ニ掲ケタル行爲ニモ屬セサル重罪又ハ輕罪ニ付キ公判開始ノ決定ヲ

爲ス場合ニ於テハ其審理ニ四名ノ陪席者ヲ參列セシムヘシ

第九條 民事訴訟ニ於テ二名ノ陪席官ヲ參列セシムルコト能ハサルトキハ領事

ハ領事裁判所ニ代ハリ之ヲ審判ス

刑事訴訟ニ於テ正規ニ依リ四名ノ陪席者ヲ參列セシムルコト能ハサルトキハ



二名ノ陪席者ヲ參列セシムルヲ以テ足ル

陪席者ヲ參列セシムルコト能ハサル事由ハ公判調書ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 領事裁判所ハ左ノ事項ニ付キ管轄權ヲ有ス

第一 裁判所構成法及ヒ訴訟法ニ依リ第一審地方裁判所並ニ參審裁判所ノ管轄ニ屬スル事件

第二 刑事事件ニ於ケル領事ノ裁判ニ對スル抗告ニ付テノ辯論及ヒ裁判

第十一條 領事裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ陪席者ハ無制限ノ發言權ヲ有ス

前條第一號ニ掲ケタル事件ニ付テハ陪席者ハ口頭辯論及ヒ口頭辯論ノ進行中若クハ口頭辯論ニ基キ爲スヘキ裁判ノミニ參與シ其他ノ必要ナル裁判ハ領事之ヲ爲ス

第十二條 領事ハ各事務年度ノ期間内經驗アル裁判所職員ノ内ヨリ之ニ該當スヘキ者ナキトキハ其管轄區域内ニ於ケル經驗アル住民ノ内ヨリ四名ノ陪席者

及ヒ二名以上ノ補助陪席者ヲ任命ス

裁判所職員ハ前項ノ任命ニ服スルコトヲ要ス裁判所構成法第五十三條第五十五條及ヒ第五十六條ハ之ヲ準用ス

第十三條 陪席者ノ宣誓ハ公庭ニ於テ最初職務ヲ行フ際之ヲ爲シ事務年度ノ期間内効力ヲ有ス裁判長ハ宣誓ヲ爲スヘキ者ニ對シ貴下ハ獨逸領事裁判所ノ陪席者タルノ義務ヲ誠實ニ履行シ良心ニ從ヒ發言ヲ爲スヘキコトヲ神ニ誓フヘシト告示ス

陪席者カ宣誓ヲ爲スニハ各自右手ヲ揚ケ余ハ之ヲ誓フ上帝眞ニ祐助ヲ垂レ給ヘト明言ス陪席者カ宣誓ニ代フルニ一種ノ約言式ヲ用フルコトヲ法律上許サレタル教會ノ會員ナルトキハ其教會ノ約言式ニ依リ爲シタル宣言ハ宣誓ト同一ノモノト看做ス宣誓ニ付テハ調書ヲ作成スヘシ

第十四條 大審院ハ左ノ事項ニ付キ辯論及ヒ終審裁判ヲ爲ス權限ヲ有ス

第一 領事又ハ領事裁判所ニ於テ審理シタル民事訴訟及ヒ破産事件ニ於ケル抗告及ヒ控訴



第二 刑事事件ニ於ケル領事裁判所ノ裁判ニ對スル抗告及ヒ控訴

第三 非訟事件ニ於ケル領事ノ裁判ニ對スル抗告

第十五條 檢事ハ領事又ハ領事裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ干與スルコトナシ但本法ニ別段ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第十六條 裁判所書記及ヒ執達吏ノ職務並ニ送達吏タル廷丁ノ職務ヲ行フヘキ者ハ領事之ヲ定ム該吏員カ領事館吏員トシテ就職ノ宣誓ヲ爲ササリシモノナルトキハ其執職ニ先チ其擔任スル職務ヲ全フセンコトヲ誓約スルコトヲ要ス執達吏ノ姓名ハ領事館ノ公示慣例ニ依リ之ヲ公示スヘシ但裁判所ノ揭示板ニハ必ス之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第十七條 辯護士ノ職務執行ヲ許可セラルヘキ者ハ領事之ヲ定ム此許可ハ取消スコトヲ得

辯護士ノ職務執行許可ノ申請ヲ拒絕シ又ハ其許可ヲ取消ス領事ノ處分ニ對シテハ帝國宰相ニ訴願スルコトヲ得

# 戶籍法令大全



# 第十六號目次

戸長ノ代理ニ關スル達	一〇七
郡區町村編制法	一〇七
郡區役所ノ名稱ニ關スル達	一〇八
市町村名并市役所町村役場位置變更ニ關スル諸件	一〇八
市町村廢置分合ニ關スル省令	一〇九
區制(三市并他ノ市ノ區制比較)	一一二

○戸長ノ代理ニ關スル達(明治十一年十二月四日  
內務省達乙第八十號)

府 縣

本年第十七號公布及ヒ第三十二號公達中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事  
一第十七號公布第六條每町村ニ戸長一員ヲ置ク云々右戸長旅行病氣忌引等ニテ  
不在ノ節ハ用掛筆生又ハ手傳人等ヲ以テ其職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

○郡區町村編制法(明治十一年七月二十二日太政官布  
告第十七號○改正十三年第一四號)

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡ト爲ス

東西南北上中下  
某郡ト云カ如シ

第四條 (三府五港其他人民輻輳ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ  
數區トナス)

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ



數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條 每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得

但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼メルコトヲ得

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ因リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區

町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事(縣令)ヨリ(內務

卿)ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

但町村區域名稱ノ變更ハ(內務卿)ノ認可ヲ受クヘシ

○郡區役所ノ名稱ニ關スル達明治十一年九月七日內務省達乙第五十六號

府 縣

本年第十七號布告ニ依リ取設ケ候郡區ノ事務取扱所ハ郡役所區役所ト可稱爲心得此血相達候事

○市町村名並市役所町村役場位置變更ニ關スル法律明治二十三年八月三十一日法律第七十七號

朕市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ

關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

○市町村廢置分合ニ關スル省令明治三十年三月十六日內務省令第三號

第一條 町村制第四條ニ依リ新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村長就職スルニ至ルマテ監督官廳ハ前町村吏員ニ命シ又ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ若クハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ其ノ事務取扱ヲ爲サシムヘシ  
前項ニ依リ事務取扱ヲ命シタル前町村ノ吏員及臨時代理者ノ給料報酬(旅費實費辨償額等)ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條 新ニ町村ヲ置キタル場合ニ於テ町村會成立スルニ至ルマテ始メテ議員



ヲ選舉スルニ付町村會ノ議決スヘキ事件ハ郡參事會代ツテ之ヲ議決スヘシ

第三條 新ニ町村ヲ置キタル日ヨリ町村稅徵收ニ至ルマテ其ノ町村必要ノ費用ハ其ノ事務取扱者ニ於テ豫算ヲ設ケ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ費用ハ假ニ町村稅ヲ徵收シテ之ニ充テ又ハ前町村ノ引繼金若クハ一時ノ借入金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 前條第二項ニ依リ假徵收ヲ爲シタル町村稅ハ追テ町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲スヘシ

第五條 町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ財務ハ實施ノ期日ヲ限リ打切り決算スヘシ

前項ノ決算ハ其ノ事務ヲ繼承シタル町村長ヨリ其ノ町村會ニ報告スヘシ

第六條 町村制第四條ノ處分ヲ爲シタル爲メ町村ノ消滅シタル場合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ニ於テ之ヲ徵收スヘシ

第七條 町村ノ一部ヲ分割シテ新ニ町村ヲ置キ又ハ町村ノ區域ヲ變更シタル場

合ニ於テ前町村ニ對スル町村稅其ノ他ノ收入ノ未納金アルトキハ其ノ部分ノ屬スル町村ノ町村長ハ前町村長ノ囑託ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第八條 町村公民ノ資格要件中其ノ年限ニ關スルモノハ町村ノ廢置分合若クハ境界變更處分ノ爲ニ中斷セラレサルモノトス

第九條 新町村ノ役場位置ハ府縣知事ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 町村ヲ變シテ市ト爲シ又ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ市制第四條ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ法令中別段ノ規程アルモノヲ除ク外總テ此ノ省令ノ規程ノ準用ス



○區ニ關スル制

○東京京都大阪三市ノ區ニ關スル制

(明治三十一年九月十號  
五日勅令第二百十號)

朕東京市、京都市、大阪市ノ區ニ關スル件  
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル制

(明治三十三年三月三十號  
一日勅令第九十八號)

朕東京市、京都市、大阪市ヲ除クノ外人口  
二十萬以上ノ市ノ區ニ關スル件ヲ裁可  
シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ハ東京市、京都市、大阪市ヲ  
除クノ外人口二十萬以上ノ市ニシテ  
有給ノ區長ヲ置ク地ニ之ヲ施行ス

第二條 區ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界  
ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ  
許可ヲ受クヘシ

本條ノ處分ニ關シ其ノ區ノ財產處分  
ヲ要スルトキハ市參事會之ヲ議決シ

内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 本條ハ第十條ト對照

第四條 區ニ區長代理者ヲ置カス

第五條 本條ハ第三、四、五條ト對照

第六條 區長故障アルトキハ區ノ上席  
附屬員之ヲ代理ス

第七條 本條ハ第六條ト對照

第八條 區收入役故障アルトキハ市參  
事會ノ指名シタル區ノ附屬員之ヲ代  
理ス

第五條 區長ハ市長、市參事會若ハ市收  
入役ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ委任ニ依リ  
區内ニ關スル市ノ事務ヲ掌ル  
區長ハ市參事會ノ監督ヲ承ケ區ノ事

第一條 區ニ區長代理者ヲ置カス區長  
故障アルトキハ上席區書記之ヲ代理  
ス

第二條 區收入役故障アルトキハ市參  
事會ノ指名シタル區書記之ヲ代理ス

第三條 區長ニ於テ財產營造物ニ關ス  
ル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ處理  
スルニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定  
ヲ準用ス



第四條 區長ハ法律命令ニ定ムルモノ  
ヲ除ク外府知事ノ指揮命令ヲ承ケ若  
ハ委任ニ依リ區内ニ關スル國及府ノ  
行政事務ヲ管掌ス

第五條 區長ハ區書記其ノ他附屬員ヲ

指揮監督ス

第六條 區收入役ノ職務權限及處務規  
程ニ關シテハ市收入役ニ關スル規定  
ヲ準用ス

務ヲ掌ル

前項區長ニ於テ區ノ事務ヲ處理スル  
ニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定ヲ準  
用ス

區長其ノ他區ノ吏員ハ法律命令ニ定  
ムルモノノ外府縣知事ノ命ヲ承ケ若  
ハ其ノ委任ニ依リ區内ニ關スル國及  
府縣ノ行政事務ヲ掌ル

區長ハ市ノ委任ニ依リ市制第七十四  
條ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ  
掌ル

前項ノ場合ニ於テ市長ノ委任ハ監督  
官廳ノ許可ヲ受ケヘシ  
區長ハ區ノ附屬員及使丁ヲ監督ス

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用  
ハ市ノ負擔トス但シ法律命令中別段  
ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條 區ノ附屬員ハ區長ノ命ヲ承ケ  
庶務ニ従事ス

第七條 區收入役ハ市役入役ノ命ヲ承  
ケ若ハ其ノ委任ニ依リ區内ニ關スル  
市收入役ノ事務ヲ掌ル

區收入役ハ區ノ出納其ノ他會計事務  
ヲ掌ル  
區收入役ノ職務權限及處務規程ニ關  
シテハ本條ニ規定スルモノヲ除クノ  
外市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス



第七條 從來ノ區會ハ之ヲ存シ新ニ區會ヲ設クルトキハ市制第百十三條ノ例ニ依ル

區會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ議決ス區會議員ハ市ノ名譽職トス

第八條 區會議員ノ選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其ノ等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權及區會議員ノ選舉ノ効力並區會議員ノ當選者ノ資格ノ有無ニ關シテハ市會

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ニ付テハ第五條第八項ノ規定ヲ準用ス



●改正刑法二付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣	松田正久閣下題字
司法次官	河村讓三郎閣下題辭
大審院長	富谷銈太郎閣下序
內務省警保局長	古賀廉造閣下序
司法省民刑局長	平沼騏一郎閣下序
司法省參事官	谷田三郎先生校閱
日本法令審査會主事	深藏著

（四版）

菊版四百八頁  
總クロース綴上製

# 新刑法實用

定價  
金壹圓五拾錢

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ二段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、

下欄ニ改正ノ理由ト説明トヲ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所

東京市神田區今川小路三丁目六番地

明倫館

明治四十一年四月十五日發行（毎月一回十五日）

川和第三二號

# 石精叢書

第七十號



石精學會



○戶籍叢書內容一覽

戶籍法實用

ハ戶籍親族相續ニ關スル通牒其他ノ實例新例等ヲ根  
據トシテ最新例ヲ類集シテ戶籍事務取扱方ヲ詳述  
シタルモノナリ

舊慣例集

ハ民法施行前ノ舊慣例ヲ施行當時ヨリ遡ホリテ編年  
的ニ類集シタルモノナリ

人事判例集

ハ民法施行後ノ大審院判決ヲ編年的ニ類集シタルモ  
ノナリ

外國婚姻令集

ハ英米獨佛其他外國ノ法令中婚姻ニ關スルモノヲ摘  
譯シテ類集シタルモノナリ

戶籍法令大全

ハ戶籍法ニ關係アル諸法令ヲ戶籍法ノ規定順序ニ類  
集編纂シタルモノナリ

戶籍法實用



第十七號目次

い頁數

第六十三條

二四一

第六十四條

二四五

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届

出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ爲シタル事ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス  
届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコ



トヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

本條ハ本法違反者ヲ過料ニ處シタル場合ニ於ケル裁判所ノ通知及ヒ戸籍吏ノ催告方法ヲ規定シタルモノナリ

一 本法ノ規定ニ違背シ届出ヲ爲ササルモノニ對シテハ第六十四條ニ依リ裁判所ヘ通知ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ之ト同時ニ本條ノ催告ヲ爲スヘキモノニアラス本條ノ催告ハ第六十四條ノ通知ヲ爲シタル後更ニ裁判所ヨリ本條第一項ノ通知ヲ受ケタル上ニ之ヲ爲スヘキ順序ナリトス

二 本條第二項第三項ニ依リ催告セルモ尙應セサルトキハ第六十四條ニ依リ更ニ裁判所ヘ通知スルハ勿論ナリ

三 本條ノ催告ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲メ催告ヲ爲スコト能ハサルトキハ其所在分明ト爲ルヲ俟テ之ヲ爲ス外ナシ

身分登記ヲ變更スヘキ場合ニハ第四十條ニ依リ本人ニ通知ヲ爲スヘキモノナリトス  
ルモ本條ノ催告ヲ爲スヘキモノニアラス又第四十條ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラズ身分登記ノ變更ノ申請ヲ爲ササル者ニ對シテハ本條ノ催告ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條ニ依リ監獄ノ長ヨリ報告ヲ爲スヘキ場合ニハ本條ノ適用ナシ但在監人死亡ニ付キ其引取人アル場合ニハ引取人ニ對シ其適用アルコト勿論ナリトス

本法施行前ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シテハ本條ノ催告ヲ爲スニ及ハス

四 本條ノ催告ノ費用ハ當事者ニ負擔セシムルコトヲ得ス從テ町村制第十條ノ規定ヲ準用シ町村條例ヲ設ケ手数料ヲ徵スルコトヲ得ス



第六十四條 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リタルトキハ  
遅滞ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコト  
ヲ要ス

本條ハ本法違反者アルコトヲ知リタル場合ニ於ケル戸籍吏ノ通知方ヲ規定シタルモノナリ

第一 通知ノ要件

一 本條ノ通知ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ爲スモト解セスシテ届出人ノ住所又ハ居所ヲ管轄スル區裁判所ニ爲スヘキモノトス  
非本籍人ノ届出ヲ非本籍地ニ於テ受理シアル場合其届出カ期間後ナルトキ通知ヲ爲スヘキ戸籍吏ハ非本籍地戸籍吏ニシテ本籍地戸籍吏ニアラス又之レカ通知ヲ受クヘキ裁判所モ本籍地ヲ管轄スル裁判所ニ在ラス  
本籍地戸籍吏カ受理シタル場合ニ於テモ届出人カ他ニ居住スルトキハ其地



所管ノ裁判所ニ通知スヘキモノナリ故ニ本籍地所管ノ裁判所カ通知ヲ受クルモノニ因リ裁判ヲ爲スヘキモノニアラス又ハ其事件ヲ届出人所在地ノ裁判所ヘ移送スヘキモノニアラス

二本法ニ規定セル届出期間ヲ經過シ届出ヲ爲シ又ハ届出ヲ爲サ、ルモノアルトキハ理由ノ如何ニ係ラス戸籍吏ハ本條ニ基キ其事件ノ管轄裁判所ヘ通知スルモノト認ムヘシ

届出期限ノ經過シタル届書送付シアリタルトキハ届書ヲ受理ノ上本條ニ依リ通知ヲ爲スヘキモノトス

三本條ノ通知ハ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サ、リシ事實ヲ當事者ノ届出ニ依リテ知リタルトキト雖モ尙ホ之ヲ爲スヘキモノナリ

四本條ノ通知ハ届出人ノ住所又ハ居所ノ區裁判所ニ爲スヘク其住所又ハ居所カ外國ニ在リテ其國駐在ノ領事カ裁判權ヲ有スルトキハ其領事ニ於テ過料ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

第二百十四條ノ過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ

管轄スル區裁判所ノ管轄ナルカ故ニ戸籍法違反ノ事實ヲ知リタル戸籍吏ハ其裁判所ニ通知ヲ爲スヘキ管ニシテ住所地ニモ居所地ニモ非サル本籍地區裁判所ニ通知スヘキモノニ非ス假令其本籍地區裁判所ニ通知ヲ爲スコトアルモ本籍地區裁判所ハ何等ノ手續ヲ爲スヘカラサルモノトス

戸籍吏ヨリ通知ヲ受ケタル裁判所カ管轄權ヲ有セスト決定シタルトキハ之ヲ戸籍吏ニ通知スヘク戸籍吏ハ更ニ相當管轄裁判所ニ通知ヲ爲スヘシ

五本條ノ通知ハ届出人カ届出期間經過後ニ届出ヲ爲シタル場合ニモ之ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テハ違反ノ通知ト共ニ届出ヲ受理シタル旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ故ニ第六十三條第一項但書ハ此場合ニ適用アルモノトス

六過料ニ付テハ時効ノ定ナキヲ以テ期間經過後ノ年月ニ拘ハラス本條ノ通知ヲ爲スヘキモノトス

七戸籍吏カ届出又ハ申請ノ義務者ニ對シ催告ヲ爲スヘキ場合ハ第六十三條ノ場合ニ限ル故ニ戸籍吏カ届出期間ヲ經過シタルニ拘ハラス届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リタルトキハ同條ノ催告ヲ爲スコトヲ得サルモ相當ノ注意



ヲ與フルハ差支ナシ

第二 通知ヲ爲スヘキ各種ノ場合

- 一 身分ニ關スル届出ヲ法定期間内ニ提出シタルモ其地方事項ニ誤記其他訂正ス可キモノアリ又ハ地方事項ニ不備ノ點アリタル爲メ一時届出人ニ差戻シ届出人ハ訂正ノ上又ハ補記シタル上再ヒ届書ヲ提出シタルニ此時ハ已ニ法定ノ届出期間ヲ過キタルトキ總テ戸籍法第二百十條ニ相當スルモノトシ戸籍吏ヨリ區裁判所ニ通知シ來リタル場合ニハ裁判所ハ其事情ヲ斟酌シ過料ニ處セサル場合多カルヘシト雖モ全ク法定期間内ニ届出テタルト同一ナリトハ云ヒ難キヲ以テ戸籍吏ノ通知ハ之ヲ停止スヘキモノニ非サルヘシ
- 二 非本籍人ヨリ身分ニ關スル届書ヲ受理シタル場合ニ於テ其届出カ法定ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ非本籍地戸籍吏ハ第二百十四條ニ定メタル届出人ノ住所又ハ居所ヲ管轄スル區裁判所ニ本條ノ通知ヲ爲スヘキモノトス

出寄留中ノ本籍人ニ付テモ届出期間經過後本籍地へ届出テ又ハ本籍地へ爲

スヘキ届出ヲ怠リタル場合ニ於テハ本籍地戸籍吏ハ本條ノ通知ヲ爲スヘキモノトス

寄留地タル北海道ヨリ期間ヲ經過シタル届書ノ送付ヲ受ケタル本籍地戸籍吏ハ本條ノ通知ヲ寄留地管轄裁判所ニ爲スヘシ

三 本法未施行地ニテ期間内ノ初送ト雖モ一切郵送中ノ時日ハ猶豫スヘカラストシ兎ニ角戸籍吏ハ違犯ノ通知ヲ爲スヘシ

内地ニ本籍ヲ有スル者ニシテ臺灣ニ寄留中子女出生シタルニ依リ其届書ヲ本籍地戸籍吏ニ直接送付シ届出タル場合ニ於テ其出生ノ日時ト届出ノ日附トハ第六十八條ノ期間ヲ經過シ居ラサルモ出生ノ日時ト到着ノ日時ヲ計算スレハ既ニ其期間ヲ經過セル場合ニ於テハ戸籍吏ハ本籍地ヲ管轄スル區裁判所ニ本條ノ通知ヲ爲スヘシ但裁判所ハ之ヲ過料ニ處スルコトヲ得サルヘシ

四 外國ニ在ル日本人ヨリ在留外國日本公使又ハ領事ニ出生ノ届出ヲ爲シ本籍地戸籍吏カ其届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ其届出カ期間ヲ經過シタル



モノナルコトヲ發見スルトキハ第二百十四條ニ定メタル届出人ノ住所又ハ居所ノ區裁判所ニ本條ノ通知ヲ爲スヘク若シ其住所又ハ居所カ外國ニ在リテ其國駐在ノ領事カ裁判權ヲ有スル場合ニ於テハ其領事ニ於テ過料ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

**五** 他町村へ寄留セシ者身分ニ關スル届書ヲ郵送スルモノアリ而シテ其届書ハ届出期間内ニ差出シタルモノナリト雖モ本籍役場ニ到リシトキハ既ニ届出期間ヲ經過セシトキハ本條ニ依リ管轄區裁判所へ通知スヘキモノトス  
届書ヲ郵便ニ付シ其郵便遲着ノタメ相當期間ニ後レタルトキ若クハ顯然タル天災ノ爲メ期間ニ後レ届出ヲ爲シタルトキト雖トモ戸籍吏ハ事由ノ如何ニ關セス苟モ期間ニ後レテ自己ノ役場ニ到達シタルモノニ付テハ悉ク本條ノ通知ヲ爲スヘシ

出生死亡其他ノ届出ニシテ届出期限アルモノ其期限ヲ經過シテ届出タルモノハ過料ニ處セラルヘキハ勿論ナルモ地方ニ依リ交通不便ノ事情アルニモ拘ハラス之ヲ嚴行スルトキハ各離島ニアル届出人ハ交通不便ノ爲メ其百分ノ九十餘ハ届出期限經過シタル後ニアラサレハ届出ツルコト能ハサルモ届出期限内ニ届出サルモノト同シク該届書ヲ受理シタルトキハ直ニ管轄裁判所へ通知スルノ外ナシ但正當ノ事由アリテ届出期間ヲ經過シタル者ハ之ヲ過料ニ處スルコトヲ得サルヘシ

**六** 傳染病發生シ患者死亡スルモ交通遮斷ニシテ期間中ニ届書ヲ出ス能ハス已ムヲ得ス數日ヲ經過シテ届出スモノハ之ヲ受理登記シ差支ナキモ本條ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

**七** 第六十三條二項三項ニ依リ催告スルモ尙ホ届出ヲ爲ササルトキハ更ニ本條ノ通知ヲ爲スコトヲ得

**八** 第二百二十五條第三百三十三條第三百三十五條等ノ如キ事實ヲ知リタリ日ヨリ届出ヲナスノ身分届ニ付テハ何レノ日ニ其事實ヲ知リタルモノト爲スカハ實際ノ事實ニ因リ決定スヘキモノナレハ戸籍吏ハ適宜ノ方法ニ依リ一應ノ調査ヲ爲シタル上戸籍法ノ規定ニ違犯シタルモノト認メタルトキハ本條ノ通知ヲ爲スヘシ



民法第七百四十二條ノ場合ニ於テ一家創立ノ届出ヲ爲ササルトキハ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三 通知ヲ爲スヘカラサル各種ノ場合

一 戸籍吏ハ其管轄内ニ戸籍法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サル者アルコトヲ知リタルトキハ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルハ本條ノ規定ナリ然ルニ届出ヲナスヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ニシテ親權ヲ行フヘキ者ナク後見人設定前ニ届出期間ヲ經過シタル如キ場合ニ於テハ届出ヲ怠リタルモノト爲スヲ得サルニ付キ本條ノ通知ヲ爲スヘカラス

二 第七十四條ノ規定ニ因ル届出事件ニシテ届書訂正其他ノ爲メ所定ノ届出期間ヲ過キテ届出ヲ爲シタル者アルトキハ本條ノ規定ニ依リ之ヲ管轄區裁判所ヘ通知スヘキモ届書ヲ受理シタル後訂正等ヲ命シ其手續ヲ爲ス前届出期間ヲ經過シタル場合ハ之ヲ要セス

三 本條ニ戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サルモノアルトキハ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ストアリ然ルトキハ茲ニ甲

其本籍人他戸籍吏管轄内ニ於テ死亡シタルトキ届出義務者タル乙某ハ戸籍吏管轄以外ノモノナレハ假ヒ届出期間ヲ經過シタル届書ヲ差出シタル場合ト雖モ之レヲ通知スヘキモノニアラス

第二百二十九條ニ依リ監獄ノ長ヨリ報告ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テハ本條ノ手續ヲ爲スヘカラス又在監中死亡シタル者引取人アル場合ニ於テハ届出期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ怠リタルカ爲メ過料ニ處セラレタル者ノ通知ヲ受ケタルトキニ限り其手續ヲ爲スヘキモノトス

四 戸主甲死亡ノ當日ヨリ一ヶ月以上經過シタル後家督相續人乙ヨリ戸主死亡相續開始ノコトヲ知ラス其日初メテ聞知シタル事實ヲ具シテ家督相續ノ届出ヲナシ戸籍吏ニ於テ事實相違ナキモノト認メタル場合ハ期間經過シタルモノニアラス依テ戸籍吏ハ本條ノ通知ヲ要ス

五 轉籍本籍地變更等届出ニ因リテ效力ヲ生スル事件ニ付テハ本條ノ適用ナシ  
六 本法施行以前ニ發生シタル届出事件ハ其届出ヲ怠ルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ因リ區裁判所ニ通知スルニ及ハス



本法施行前出生届ヲ怠リタルモノハ本法ノ規定ニ依リ届出義務者ヨリ届出ヲ爲スヘキモノナルニ付届出義務者ヨリ届出ヲ爲シタルトキハ身分登記並ニ戸籍ノ記載ヲ爲スヲ要スルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルカ故ニ本條ノ手續ヲ爲スヘカラス

本法施行前戸主死亡シ推定家督相續人アルニ拘ハラス届出ヲ履行セサルモノアリ然ルニ實施後届出タルトキト雖トモ新法以前ノ事故ナルヲ以テ本條ノ通知ヲ要セサルナリ

本法施行前ニ發生シタル事件ノ届出ヲ怠リタル者ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用スヘカヲサルモ相當ノ注意ヲ爲スハ妨ケナシ

# 舊慣例集



舊習因集

第十七號目次

(明治二十四年分)

廿四	後妻ノ子ト前妻(家女)トノ續柄	三二一
廿五	養子ノ主ノ他家ヘ縁組	三二二
廿六	姉夫ノ相續權	三二二
	伯叔父母ノ相續權	三二二
	母ノ相續權	三二二
廿七	女子ノ相續權	三二二
廿八	隱居ノ場合ニ於ケル相續人撰定	三二三
廿九	出生届漏者ニ對スル制裁	三二三
三十	妻ノ相續權	三二三
卅一	嫡子ノ廢除ノ條件	三二四
	嫡孫ノ廢除ノ條件	三二四
卅二	後見人ノ幼年戶主廢家人手續	三二四
卅三	妹ノ相續權	三二五
卅四	養女ノ相續權	三二五
卅五	婿養子ノ子ノ相續權	三二五
卅六	分家後入籍シタル長男ノ相續權	三二六
卅七	父失踪中ノ母ノ相續權	三二六
卅八	失踪中ノ女子ノ廢除	三二七
同	養嗣子ノ廢除	三二七



死亡者ノ養子	三二七
卅九 叔姪間ノ婚姻	三二八
四十 祖父母ノ復籍	三二九
父母ノ復籍	三二九
四十一 登記ノ年月日	三三〇
四十二 絶家期限内ノ相續人選定	三三〇

明治三十年十月

三重縣伺(十七年一月二十六日)

明治三年壬子十月十七日布告ヲ以テ士族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願ノ義可爲勝手  
 旨被仰出同十二年太政官御達第八號ヲ以テ士族家督相續養子貫籍替ノ義自今  
 出願ニ不及直ニ戸長へ可届出云云御達相成候處五十歳未滿ニ在テ隱居スル事  
 故ヲ詳具シ戸長役場へ届出ルニ止ル義ト相心得可然哉  
 内務省指令(十七年二月十五日)  
 後段伺ノ通

内務省庶務局長照會(二十四年十一月二十五日)

家女ノ妻ヲ離婚シ更ニ迎ヘタル後妻ノ擧ケタル男子戸主トナリタルトキハ其戸  
 主ヨリ右家女ヲ養叔母ト稱シ可然旨去ル二十年六月二十二日附元民事局次長ヨ  
 リ御回答有之候得共右ハ當戸主ノ父養子ニ入籍セルモノヨリハ養家ナルヲ以テ離婚ノ妻  
 ヲ養姉若クハ養妹ト稱スルモ當戸主ハ其家ニ生レタルモノニシテ養方ニハ無之  
 ニ付如此者ハ父ノ離婚セル前妻ハ家女タルト他ヨリ入嫁セルモノタルトヲ問ハ



ス單ニ叔母ト稱シ隨テ父ノ養父ハ單ニ祖父ト稱スル如ク養字ヲ冠セル方可然哉  
ニ被存候條猶御意見承知致度候

總務局長回答 (二十四年十二月一日)

右ハ御意見ノ通ニテ可然義ト思考ス

茨城縣照會 (二十四年十二月二日)

第一項 養子戸主ニシテ生計上其他止ムヲ得サル事情アリ廢家ノ上養母及妻子

携帶互ニ他家(養母ナシ)ノ養子トナルヲ得ヘキヤ

内務省庶務局長 同答 (二十四年十二月十日)

第一項 御見込ノ通

茨城縣照會 (二十四年十二月二日)

第二項 明治十二年第八號達ニ付別紙兵庫縣伺ニ對シ内務省指令モ有之候處姉

夫伯叔父母又ハ母(寡婦)ノ相續ハ相續ノ變體ナルヲ以テ出願許可ヲ要スルモノ

ニ可有之哉

第三項 新治郡九重村高谷志奈ヨリ別紙寫ノ通出願有之就テヨネヘ追テ配偶ス

ヘキ養孫ヲ迎ヒ相續可爲致様相諭候處差向養孫難迎事情有之旨ヲ以テ強テ差

出候得共婦女相續ハ男子無之一時不得已中ニ於テ許可スルノ例規ニ付是等ハ

許可セサル方ニ可有之哉

第四項 子女ナキ戸主ニシテ疾病等其他止ヲ得サル事情アリ退隱スルニ臨ミ養

兄ヲシテ相續セシムル場合ハ出願許可ヲ要セサルヤ

第五項 長二三男ヲ有スル戸主死亡後長男ニ於テ十九年中家督相續シ然ルニ

四男某(壬申戸籍編纂後)ノ出生出生届漏ニ付明治十九年内務省令第二十五號ニ

依リ十二月十日迄ニ可届出當然ノ處其届洩タル今同發見候旨ヲ以テ届出候モ

ノ有之如此ハ同年同省令第十九號ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヤ

但本文現戸主十九年十二月十日各相續セシ場合ニアリテハ告發スルノ限ニ

無之哉

第六項 夫生存中ハ如何様ノ事情アルモ妻ヘ相續爲致候義ハ不相成例ニ有之候



處爰ニ子女ナキ養子戸主不得止事情アリ離縁復籍スルニ方リ養父アルモ老衰事ニ堪ヘス依テ妻某(家女ニアラス)へ戸主ヲ譲リ生家へ復籍セント出願スルモノアリ右養子ハ依然同籍ニ居ルニアラサレハ許可シ差支無之哉

庶務局長回答 (二十四年十二月十日)

第二項 出願ヲ要セス

第三項 遺留女子ヲシテ相續セシメ然ルヘシ

第四項 第五項但書共第六項御見込ノ通

(参照) 兵庫縣伺 (十二年四月二日)

士族家督相續ノ義ニ付本年第八號ヲ以テ公達相成右但書ノ次第モ有之候ニ付テハ實子ナキ戸主病氣事故等ニテ姉妹ノ婿或ハ伯叔父母又ハ母(寡婦)へ相續セシメ其身隱居或ハ生家へ復歸等ノ如キモ總テ願出ルニ及ハサル義ト相心得可然ヤ

内務省指令 (十二年四月二十一日)

伺ノ通

東京府問合 (二十四年十二月九日)

嫡子嫡孫ヲ併セテ廢嫡セントスル者アリ嫡子ハ放蕩無賴相續ノ見込無キニヨリ廢嫡スル義ナレハ實際本人ノ承諾ヲ得難キニヨリ其承諾ナキモ差支ナキヤ又嫡孫ヲ廢スルニ於テハ其嫡孫ノ利益ヨリスルモ其者ノ父ノ承諾ヲ要スルハ當然ノ義ナリトハ被存候得共父タル者前顯ノ事實ニ仍リ廢嫡セラル、モノナレハ是亦實際ニ於テ其承諾ヲ得難キニヨリスノ如キ場合ニ於テハ戸主タル祖父ノ存意ノミニテ廢嫡差支ナキヤ

總務局長回答 (二十四年十二月十八日)

前段御見込ノ通後段事情止ムヲ得サルモノニ限り御見込ノ通

東京府伺内務省ヨリ (二十四年十一月十八日)

後見人ニ於テ幼者ノ家ヲ廢スル件ニ付テハ客年十二月二十七日附司法省第二六九九號指令ノ次第モ有之候處若シ其幼者養子若クハ分家戸主ニシテ一家維持難相成爲メ實家へ退身セントスルモノ又ハ遺兒棄兒ニシテ立戸シタルモノ若クハ



其他ノ幼年戸主ニシテ資産ナク他ニ扶助スルモノモアラス到底自活ノ目途相立  
タサルカ爲ノ廢戸主ノ上縁組若クハ婚姻セントスルモノ、如キハ事情止ヲ得サ  
ルモノニ付特ニ廢戸主ノ義聽許シ不苦哉

指令内務司法務 (二十四年十二月二十五日)

客年十二月二十七日司法省指令第二六九九號ノ通心得ヘシ

但事情止ヲ得サルモノニ限り親族協議出願ノ上ハ聽許苦ラス

京都府内務省合議 (二十四年十一月二十五日)

- 第一項 戸主タル兄死亡ノ場合ニハ其弟相續權ヲ得ル義ニ候處戸主ナル兄又ハ姉死亡ノ場合其相續權ハ妹ニ歸スヘキヤ
- 第二項 實子ナキ戸主死亡ノ場合ハ養子ニ於テ相續權ヲ得ル旨趣ニ有之候處右ノ場合ト雖モ養女ニハ相續權無之候哉
- 第三項 長女ニ掣養子ヲ迎ヘ一男子ヲ擧ケタル後其掣養子ヲ離縁又ハ死亡ノ場合其相續權ハ長女孫ノ就レニ歸スヘキヤ男子ナルヲ以テ孫ニアリトスレハ其

孫女子ナルトキハ如何

第四項 戸主アリ長男ニ相續ヲ讓リ長女ヲ携帶分家ス後長男本家ヲ廢シ他家へ縁組シ亦之ヲ廢家シ曩キニ分家シタル實父ノ方へ編籍シタルトキ其分家ノ相續權ハ長男女孰レニ歸スヘキヤ若シ男子ナルヲ以テ長男ニアリトセハ分家ノ際携帶子次三男ナルトキハ如何

第五項 爰ニ甲長男(主)乙父(退隱)丙母ノ一家三口アリ甲戸主死亡セシヨリ乙父再相續スヘキノ處目下失踪中ニ付不得止事情申立丙母ニ於テ婦女相續出願スルモノアルモ乙ノ配偶者ニ付乙ヲ差置キ相續相成ヲサル義ニ候哉

第八項 茲ニ獨女又ハ養嗣子ヲ有スル戸主死亡シ獨女又ハ養嗣子ハ失踪ス故ニ其獨女又ハ養嗣子ヲ廢嫡又ハ離縁シ他ヨリ相續人貫受度旨親族協議ノ上願出ルモノアリ右ハ許可シ不苦哉果シテ許可シ得ル義ニ候得ハ其相續人ハ先代(即死)ノ養子トシテ入籍スヘキ筋ニ候ヤ

指令 (二十四年十二月二十五日)

第一項 伺ノ通



第二項 養女相續權ヲ有スルモノトス

第三項 孫ハ男女ニ拘ラス相續權ヲ有スルモノトス

第四項 長男ハ更ニ嗣子ニ定ムルニ非サレハ分家ノ子女ニ先テ相續權ヲ有セサルモノトス

第五項 父失踪後十箇月經過ノ上親族協議出願セハ母跡相續苦ラス

第八項 獨女又ハ養嗣子失踪後十箇月經過ノ上ハ總テ伺ノ通

京都府伺内務省ヨリ合議 (二十四年十一月二十五日)

第六項 叔姪結婚ハ不相成ノ處茲ニ入家ノ女戸主アリ其養母(他ヨリ入家ノ實家)ノ實家

ニ在籍ノ弟ヲ入夫ニ貰受ケントス如此ハ表面叔姪ノ如シト雖モ其實血縁ナキモノニ付結婚差支無之候哉

指令内務省ヨリ合議 (二十四年十二月二十五日)

第六項 血縁ナキモノト雖モ結婚相成ラサルモノトス但事情止ヲ得サルモノハ

事實ヲ具シテ伺出ヘシ

京都府伺 (二十四年十一月二十五日)

第七項 祖父母父母ノ續柄ヲ以テ一旦編籍セシモノハ如何ナル事由アルモ復籍

ハ不相成筋ニ候ヤ

第九項 戶籍ニ登記スル年月日ハ去十九年内務省令第二十二號戶籍取扱手續第

八條第十條及第十九條ニ據リ入籍ハ本人届出ノ年月日(届出期限アルモノ)除籍

ハ入籍報知書ニ依リ其入籍ノ年月日ヲ以テ取扱フヘキ筈ニ有之尙ホ去ル二十

年七月十一日滋賀縣知事ヨリ内務省ヘ伺出ニ對シ同月二十三日付御指令ニ據

レハ願濟(即チ届出期)ニ係ルモノハ其願濟ノ年月日ヲ以テ除籍スヘシト有之故

ニ右御指令並ニ取扱手續第十九條中ニ第八條ノ如キ届出期限アルモノニ規定

無之ヲ以テ見レハ願濟ノ年月日ヲ以テ取扱フヘキモノハ單ニ除籍ニ限り入籍

ハ第十九條ニ依リ本人届出ノ年月日ヲ以テスル義ト存候果シテ然ルトキハ未

ダ本人届出サルハ勿論送籍取扱ハサル前ノ年月日ヲ以テ除籍セサルヲ得ス願

濟ノ有無ニ依リ其加除籍年月日ニ異同ヲ生シ隨テ戶籍表調製上ニモ不都合ヲ

感シ候乎ニ被存候得共矢張右願濟ノ年月日ヲ以テ取扱フハ除籍ノミニ限ル義



ニ候哉

指令内務司法 (二十四年十二月二十五日)

第七項 親族協議出願ノ上ハ復籍苦ラス

第九項 加除トモニ願濟ノ年月日ヲ以テ取扱フヘキモノトス

長崎縣伺 (二十四年十二月十八日)

失踪逃亡者跡相續方ノ件ニ付明治十八年五月鹿兒島縣伺ニ對シ單身戸主失踪逃亡ノ場合ニ於テハ相續方不相成段内務大臣御指令ノ旨モ有之候處右ハ如何ナル事情アルモ難聞届義ニ候ヤ果シテ然ラハ單身戸主失踪逃亡ノ儘歸宅セサル時ハ假令近親ノ者アルモ自ラ絶家トナルヲ得サル次第ニ付該家繼續ノ爲メ戸主除籍後ニ至リ絶家期限内ニ於テ跡相續者ヲ定ムルハ差支無之義ニ候哉

指令 (二十四年十二月二十八日)

何ノ通心得ヘシ

# 人事判例集

人事判例集



第十七號目次 (明治三十三年分)

○ 民法中「家ニ入ル」ノ解釋……………	一八一
○ 民法施行前有效ナリシモ民法上無効ナルヘキ縁組ノ効力……………	一八一
○ 民法施行前ノ事實上ノ婚姻ノ解釋……………	一八六

人事判例集

ヲ判示シ而シテ其理由ハ原判決ヲ維持スルニ十分ナレハ裁判ニ理由ヲ付セサル不法アリト云フコトヲ得ス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第三ハ原判決ハ條理及ヒ慣例ノ適用ヲ誤マリタル不法アリ原判決ニ於テハ被控訴人ハ新甲第三號證ヲ以テ恣夫妻トハ曾テ同居シタル事實ニ依リ假ノ養子タル明白ナリト主張スルモ養子ハ必ス養父ト同居同棲スヘキモノトノ條理ナク又慣行ナキヲ以テ同居セサリシトテ假ノ養子ト推定スルニ足ラスト判斷セラレタリ然レトモ子ハ父ノ家ニ入ル(民法第七百三十三條)養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル(同第八百六十一條)トコトハ我カ民法ニ於テ新タニ發見シタル規定ニアラスシテ法理ニ酌ミ慣習ニ按シ之レカ規定ヲ設ケラレタルモノタリ故ニ養子特別ノ事由存セサル限リハ養親ノ家ニ入ルヘキコト條理ニ於テモ亦我慣行ニ於テモ共ニ認メラル、處ナリト信ス、然ルニ原判決カ斯ル條理及ヒ慣行ノ存セサル旨ヲ以テ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ

然レトモ民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニア



ラス抑々血縁ノ親子ハ勿論養親子又其ノ同棲スルコト多キニ居ルハ通例ナリト雖モ同棲ハ養子縁組ノ成立要件ニ非ラサルカ故ニ被上告人カ上告人ト同棲セサルハ養子縁組ノ真正ニ成立セサルカ爲メナルヤ否ヤハ事實判斷ノ範圍ニ屬スルモノトス然レハ即チ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ判斷ヲ非難スルニ過キスシテ上告ノ理由トスルニ足ラス上告趣旨ノ第四ハ原判決ハ法律ニ違背シテ事實ヲ確定シタル不法アリ原判決ニ於テハ而シテ恣等トノ縁組ニハ媒酌人ナク略式モ舉ケストノ點ハ假リニ控訴人主張ノ如シトスルモ這ハ唯一ノ情況ニ過キサレハ之レノミヲ以テ恣等ヲ假リノ養子ト認定スルヲ得スト判斷セラレタレトモ此事實カ情況ニ過キサルコトハ論ヲ俟タス而カモ其情況タル養子縁組ノ意思表示カ虚偽ナリシコトヲ推測スル情況ノ一ナリ而シテ上告人ハ敢テ之レノミニ依リテ本件養子縁組ノ意思表示カ虚偽ナリト主張スルニ非ス第二點ニ陳供シタル八項ノ情況ヲ綜合シテ此ノ主張ノ適當ナルコトハ原記録ニ徴シ明カナリ然ルニ原判決ハ之レノミヲ以テ假ノ養子ト認定スルヲ得スト判斷シ恰カモ上告人カ此事實ノミニ依リ本件養子縁組ノ虚偽ヲ主張シタルモノ、如ク事實ヲ不當ニ推定

シ其責任ヲ上告人ニ命シタルハ不法ノ判決ナリト云フニアリ然レトモ原判決ニ一ノ情況ニ過キサレハ之レノミヲ以テ恣等ヲ假リノ養子ト認定スルヲ得スト判斷シタルハ其上文ニ掲記シタル事項ハ直接ニ縁組ノ真正ニ成立セサルコトヲ證明スルニ足ラストノ趣旨ニ外ナラス而シテ原院ハ上告人ノ提出シタル事項他ニナキモノト判斷シタルニ非サルコトハ其判文全旨趣ニ徴シテ明カナリ故ニ本論旨モ亦其上告ノ理由ナシ上告趣旨ノ第五ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アリトス原判決ニ於テ被控訴人ハ甲第壹號證ヲ以テ恣夫妻ヲ養子トシタル當時ニ於テ既ニ被控訴人ニ利市ナル相續人アリタルハ殊更同人ニ在テハ相續人アルモノト雖他人ノ男子ヲ收養シテ養子トナシタル慣習アリテ法律ノ禁セサリシ所ナリ恣等ヲ養子トナシタル當時被控訴人ニ利市ナル相續人アリシトテ之ヲ以テ戸籍ノ登録ヲ經タル恣等ヲ假ノ養子ト推斷スルヲ得スト判斷セラレタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ナリトス其理由左ノ如シ民法施行以前ニ在テハ推定ノ家督相續人アル者ハ極貧或ハ老病アル場合ニ實子カ



幼少ナルトキノ如キ特別ノ事情存在シ實子ヲ廢嫡シタルニアラサレハ嗣子トシテ養子ヲ爲スコトヲ許サ、ル本則トシ唯タ養子トセス二三男トシテ他人ヲ養フコトヲ得タル故ニ本件ノ如ク推定家督相續人タル嗣子養子シタルコト甲第一號證ノ如クナルニ不拘被上告人ヲ養子ト爲シタル場合ニ於テ其養子縁組ノ有效ナルニハ特別ナル事情存シ養子ヲ廢嫡シタルカ又ハ嗣子トセサル目的ニテ養子トナセシ事實存セリ要スルニ原院ハ民法施行前ニ在テハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニ於テモ男子ヲ養子トナスハ敢テ妨ケナキモノナリト判示シ以テ養子縁組ノ目的如何ニ不拘養子ト爲スコトヲ得タルモノ、如ク裁判シタルハ失當ナリト云フ且ツ夫レ民法施行以前ノ法則ノ假令原院判決ノ如クナリトスルモ本件ノ養子縁組ハ民法第八百五十四條ノ規定ニ依リ當然取消權ヲ有スヘキモノナルコトハ民法施行法第六十七條ノ規定ニ照ラシ明ラカナルカ故ニ上告人ノ本訴請求即チ被上告人等ニ對シ離縁復籍ヲ求ムル訴ヲ排斥スルヲ得サル筋合ナリトス然ルニ原院カ前掲ノ如キ如上ノ誤解ヨリ第一審判決ヲ變更シ上告人ノ請求ヲ排斥セラレタルハ頗ル失當ナリト云フニ在リ

然レトモ民法施行以前ニ在リテハ法定家督相續人タル男子アル場合ト雖モ單純ノ養子ト爲スコトハ毫モ妨ケナカリシモノトス而シテ原判決ハ被上告人ヲ以テ上告人ノ養嗣子ト爲シタルモノト事實ヲ確定シタルニ非ラサルヲ以テ當時ノ法令若クハ慣習ト違背シタル所ナシ若シ夫民法施行法第六十七條規定ノ趣旨ハ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ當時ノ法令若クハ慣習ニ於テ適法トセス且民法ニ於テ養子縁組取消ノ原因トナルモノハ民法施行ノ後モ其縁組ヲ取消スコトヲ得トノ注意ニ過キス故ニ本訴ノ養子縁組ハ民法第八百三十九條ニ違背シ即チ民法ニヨレハ取消ノ原因アルヘシト雖モ既ニ前段ニ説明シタル如ク縁組當時ニ於テハ適法ナリシヲ以テ民法施行法第六十七條ニ依リテ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘキ限リニアラス故ニ本論旨モ亦上告適法ノ理由トナラス

上來說明スルカ如ク上告論旨ハ一モ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條初項ノ規定ニ依リ主文ノ如ク判決ス



### ○民法施行前ノ事實上ノ婚姻ノ解決

明治三十二年第二百五十八條明治三十三年二月一日第一民事部判決  
右當事者間ノ婚姻届出請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年十月三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

#### 判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

#### 理由

上告第一點ハ本件ニ於テ被上告人カ其任意ニ上告人ノ家ヲ去リタル事ハ爭ナキ事實ナリ而シテ其去ルヤ被上告人ハ上告人ノ虐待々遇ニアリト主張シ又ハ訴訟準備ノ爲メナリト主張スレトモ更ニ立證ナシ而シテ上告人ハ其被上告人カ上告人ノ家ヲ去ルコトニ向テ異議ヲ狹ミタル事實モアルコトナシ於是乎上告人抗辯ノ理由ハ一度婚姻成立セシモノトスルモ其届出以前ニ黙示ノ協議離婚アリタルモノナリト云フニ存ス元求新民法實施以前ニ於テ届出テ非ラサル婚姻ノ解消ヲ爲スニハ如何ナル方式ヲ要スヘキカハ法律ノ規定セサル所ナリ換言スレハ民法

實施前ニ於テハ婚姻ノ成立ハ要式行爲ナルコト明カナリト雖モ離婚ノ行爲ハ要式ニアラサリシナリ殊ニ未タ届出テアラサル婚姻ニ於テハ最モ然リトス故ニ事實ニ於テ明示ノ協議ノ離婚モ又之レアルノミナラス黙示ノ協議離婚モ亦之レアリ得ヘキ理ナリトス今本件ニ於テ被上告人ノ家ヲ去リタルコトハ爭ヒナシ而カモ其虐待ニ遇ヒタル事實又ハ訴訟準備ノ爲メナリト云フ事實ノ立證ナキ以上ハ被上告人ハ任意ニ上告人ノ家ヲ去リタルモノト論決セサルヘカラス而シテ其任意ニ去ルニ臨ミ上告人カ之レニ異議ヲ唱ヘタル事實アラサル以上ハ單ニ事實ノ觀察トシテ黙示ノ協議離婚アリタルモノト認ムヘキノミナラス法律上ノ理由トシテ之レ等ノ事實ハ黙示ノ協議離婚アリタルモノナリト解釋セサルヘカラス然ルニ原判決玆ニ出テサリシハ不當ニ事實ヲ認定シ且ツ法則ヲ不當ニ適用シタル缺點アルモノト確信スト云フニアリ  
然レトモ上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルモノトス然リ而シテ婦カ一時夫ノ家ヲ立去リタルヲ以テ黙示ノ離婚ト認ムヘシトノ法律規則アルコトナシ故ニ其立去リタルハ黙示ノ離婚アリタ



ルヤ否ヤハ專ラ事實ノ判斷ニ屬ス然ルヲ以テ原院ニ於テ被上告人カ一時上告人方ヲ立去リタル事實ハ未タ以テ離婚ノ意思ヲ表示シタルモノトハ認メ難シト判定シタルハ則チ事實ノ判斷ナルヲ以テ本論告ハ畢竟事實ノ判斷ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ毫モ上告ノ理由ト爲ラス

上告第二點ハ原判文理由ノ冒頭ニ於テ滿二十五年未滿ノ婚姻届出手續ノ請求ヲ爲スニハ自己ノ屬スル戸主ト共同スルニ非レハ訴ヲ提起スルヲ得ストノ法令ナキヲ以テ云々ト説明セラレタレトモ民法第七百七十二條ニ於テ二十五年未滿ノ女子カ婚姻ヲナスニハ父母ノ同意ヲ要スヘキ事ヲ規定シ戸籍法第百三條ニ於テ民法第七百七十二條ノ場合ニ於テ婚姻届書ニ同意ノ證書ヲ添附スヘキコトヲ規定セリ然レハ本案事件ノ如キ起訴ノ當時ニ於テ被上告人實父ニシテ其戸主ナルモノ、同意ヲ得共同ニテ其手續ヲ爲スヘキハ當然ノ事ナリトス然ルニ其手續ニ違背シタルハ起訴ノ手續ニ於テ不適法アリト云フニ在リ

然レトモ法律ハ子カ婚姻ヲ爲スニハ其父母ノ同意スヘキ場合ト訴訟ヲ提起スル場合トハ其規定ヲ異ニセリ故ニ民法ニ於テハ其第七百七十二條ノ規定アリト雖

# 外國婚姻令集



# 第十七號目次

獨逸領事裁判法

に頁數  
三二ノ九

## ◎注意◎

爾來英國法ノ分ヲ掲載シ居リタルモ獨逸國領事裁判法ハ立法上參考ト爲ルヘキ點點ナカラサルヲ以テ特ニ掲載スヘシトノ命ニ因リ本號ヨリ數次ニ之ヲ連載スルコトトシタレハ讀者宜シク之ヲ獨逸國法ノ分ノ後ニ綴リ込マレタシ

辯護士ノ職務執行ノ許可ヲ得タル者ノ姓名ハ領事館ハ公示慣例ニ依リ之ヲ公示スヘシ但裁判所ノ揭示板ニハ必ス之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第十八條 裁判所構成法第百五十七條乃至第百六十九條及ヒ非訟事件手續法第二條ノ規定ハ領事裁判權ノ執行ニ關與スル官衙相互ノ間並ニ此等ノ官衙ト帝國内又ハ獨逸國保護領土内ノ官衙トノ間ニ於ケル法律上ノ共助ニ之ヲ準用ス但領事カ法律上ノ共助ヲ拒ミ又ハ之ヲ許ス場合ニ於テ裁判所構成法第百六十九條第一項ニ掲ケタル裁判ニ付テハ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審トシテ之ヲ管轄ス

## 第三章 法律ノ適用ニ關スル通則

第十九條 領事裁判區域内ニ於テハ領事裁判權ニ服スル者ニ對シ左ノ規定ヲ適用ス但本法ニ別段ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第一 帝國法律中及ヒ之ト共ニ普漏士國內ニ於テ普國普通州法ノ從來ノ施行區域内ニ行ハルル一般ノ法律中民法ニ屬スル規定並ニ民事訴訟破産事件及ヒ非訟事件ニ於ケル裁判手續及費用ニ關スル規定



第二 帝國法律中刑法ニ屬スル規定並ニ刑事事件ニ於ケル裁判手續及ヒ費用ニ關スル規定

第二十條 第十九條ニ掲ケタル諸規定中領事裁判所管轄區域ニ存セサル設備及ヒ關係ヲ前提トスルモノハ之ヲ適用セス

前項ニ依リ適用セサル規定ニシテ前條第一號ニ屬スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ詳細ニ指示シ且他ノ規定ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十一條 土地ニ關スル權利、鑛山所有權並ニ其他土地ニ關スル規定ヲ適用スル權利ニ關シテハ勅令ヲ以テ第十九條ノ規定ト異ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 文學及ヒ技藝ノ著作、寫眞、發明、意匠及ヒ模型、實用意匠並ニ商標ノ保護ニ關スル法律ノ規定ヲ領事裁判所管轄區域内ニ適用シ又ハ適用セサルノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十三條 第十九條ニ掲ケタル法律ニシテ邦主ノ命令又ハ裁可ヲ必要トスルモノニ付テハ領事裁判所管轄區域内ニ於テハ天皇ノ勅令又ハ裁可ヲ以テ之ニ代ユ

領事裁判所管轄區域内ニ於テ前項ノ諸法律ニ基キ行政訴訟手續ニ依リ爲スヘキ裁判ハ聯邦參議院ニ於テ第一審ニシテ終審トシテ之ヲ爲ス

同法ニ於テ一邦ノ中央官衙又ハ高等行政官衙ノ命令又ハ處分ニ委任スルモノニ付テハ領事裁判所管轄區域内ニ於テハ帝國宰相又ハ其指定スル官衙ノ命令又ハ處分ヲ以テ之ニ代ユ

同法ニ依リ警察官衙ノ有スル職權ハ領事裁判所管轄區域内ニ於テハ領事之ヲ行フ

第一項ニ掲ケタル勅令並ニ第三項ニ掲ケタル帝國宰相ノ命令又ハ處分ヲ發スルマテハ普漏士國內ニ於テ從來ノ普國普通州法ノ施行區域内ニ行ハルル君主ノ命令並ニ各邦中央官衙ノ命令又ハ處分ヲ準用ス

第二十四條 第十九條ニ掲ケタル諸法律ニ依リ各邦ノ國庫ニ屬スル權利又ハ義務ハ領事裁判所管轄區域内ニ於テハ帝國々庫ニ屬スルモノトス但此規定ハ關係人ノ國籍ニ基キ其邦庫ニ對シ生スル權利及ヒ義務ニ之ヲ適用セス

罰金ハ帝國々庫ノ收入トス但單行ノ法律又ハ命令ノ違背ニ因リ科シタル罰金



ハ勅令ヲ以テ他ノ權利者ニ之ヲ歸屬セシムルコトヲ得

第二十五條 何レノ國籍ヲモ有セサル保護民ノ法律關係ニシテ國籍ニ關係アルモノハ何レノ聯邦ニモ屬セサル獨逸臣民ニ適用スヘキ規定ニ從ヒ之ヲ裁決ス外國ノ國籍ヲ有スル保護民ノ法律關係ニシテ國籍ニ關係アルモノハ外國人ニ適用スヘキ規定ニ從ヒ之ヲ裁決ス

第二十六條 第十九條及ヒ第二十二條ニ掲ケタル諸法律ノ趣旨ニ依リ領事裁判所管轄區域ヲ獨逸領土若クハ內國又ハ外國ト看做スノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條 第十九條ニ基キ適用スヘキ法律中外國ニ行ハル、規定ヲ援用スル場合ニ於テ其外國ニ行ハル、規定トハ領事裁判所管轄區域内ノ一地方又ハ領事裁判權ニ服スル者ノ法律關係ニ關係アル限ハ獨逸ノ法律ヲ指スモノトス或ル領事裁判所管轄區域内ニ於テ其所在地ノ政府ノ發布シタル規定ヲ獨逸ノ法律ト共ニ其地方ノ法律ト看做スヘキ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十八條 領事裁判權ニ服スル者ニ對シ領事裁判所管轄區域内ニ於テ爲スヘキ送達ハ內國ニ於ケル送達ノ規定ニ依ル但送達カ其區域内ニ於テ領事又ハ領

事裁判所ノ管轄ニ屬スル事件又ハ該區域内ニ在ル者ノ行爲ニ因ル裁判外ノ法律事件ニ關セサルトキハ此限ニ在ラス內國ニ於ケル送達ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ外國ニ於ケル送達ノ規定ニ依リ領事ヲシテ送達ヲ爲サシムルコトヲ得但關係人ノ行爲ニ因ル送達ノ場合ニ於テハ關係人ノ申立ヲ以テ囑託ニ代ヘ又職權ヲ以テスル送達ノ場合ニ於テハ裁判所書記ノ申告ヲ以テ囑託ニ代ユ其他ノ場合ニ於テハ領事裁判權ニ服スル者ニ對シ領事裁判所管轄區域内ニ於テ爲スヘキ送達ハ外國ニ於ケル送達ノ規定ニ依ル但裁判上ノ事件ニ付テハ領事ノ囑託ニ依ルヘク裁判外ノ法律事件ニ付テハ領事ニ對スル關係人ノ申立ニ依ルヘシ

第二十九條 「獨逸帝國官報」ニ依ル公告ハ別段ノ公示方法ヲ規定セサルトキニ限リ之ヲ必要トス但帝國宰相ハ此規定ノ除外例ヲ設クルコトヲ得

帝國宰相ハ「獨逸帝國官報」ニ依ル公告ニ代ヘ他ノ公示方法ヲ用ユヘキ旨ノ規定ヲ設クルコトヲ得



第三十條 新法ハ歐羅巴埃及又ハ黑海若クハ地中海ニ面スル亞細亞沿岸ニ在ル領事裁判所管轄區域内ニ對シテハ之ヲ掲載スル帝國法令全集又ハ普國法令類集ヲ伯林ニ於テ發行シタル日ヨリ二箇月ヲ經過シタル後其他ノ領事裁判所管轄區域内ニ對シテハ四箇月ヲ經過シタル後効力ヲ生ス但其施行ニ付之ヨリ長キ期間ヲ定メ又ハ帝國法律ニ於テ領事裁判所管轄區域内ニ對シ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

第四章 民法ニ關スル特別規定

第三十一條 民法第二十一條第二十二條第四十四條第一項及ヒ第五十五條乃至第七十九條ノ規定ハ領事裁判所管轄區域内ニ住所ヲ有スル社團法人ニ之ヲ適用セス

第三十二條 獨逸保護領土ノ法律關係ニ關スル法律千八百八十八年ノ帝國法令全集第七十五頁千八百九十九年ノ同法令全集第三百六十五頁第八條乃至第十條ノ獨逸殖民會社設立ニ關スル規定ハ領事裁判所管轄區域内ニ於テ同法令第八條第一項ニ掲ケタル事業ヲ營ミ且帝國領土内又ハ獨逸保護領土内若クハ領

事裁判所管轄區域内ニ住所ヲ有スル獨逸會社ニ之ヲ準用ス

第三十三條 領事裁判所管轄區域又ハ其一部ニ對シテハ勅令ヲ以テ民法第二百四十六條第二百四十七條第二百八十八條及ヒ商法第三百五十二條ノ利率ニ依ラス之ヨリ高キ利率ニ依ルヘキ旨ヲ規定スルコトヲ得

第三十四條 民法第七百九十五條第一項ニ規定セル無記名證券ニシテ領事裁判權ニ服スル者方領事裁判所管轄區域内ニ於テ發行シタルモノハ帝國宰相ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ流通セシムルコトヲ得ス

第三十五條 領事裁判所管轄區域内ニ於テ民法第九百七十六條第九百七十七條ノ場合ニ於ケル發見地ノ市町村ニ代ハルヘキモノ及ヒ民法第二千七十二條ノ場合ニ於ケル市町村ノ公共救養金庫ニ代ハルヘキモノハ帝國宰相ノ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 獨逸人又ハ何レノ國籍ニモ屬セサル保護民ノ領事裁判所管轄區域内ニ於ケル婚姻ノ方式ハ外國ニ於ケル帝國臣民ノ婚姻及ヒ身分證明ニ關スル千八百七十年五月四日ノ法律聯邦法令全集第五百九十九頁千八百九十六年ノ帝



國法令全集第六百十四頁ノ規定ノミニ依リテ之ヲ定ム但外國ノ國籍ヲ有スル保護民ハ此方式又ハ其本國法ニ從ヒ許サレタル方式ニ依リ婚姻ヲ爲スコトヲ得

婚姻ノ方式ニ關シ領事裁判所管轄區域所在地ノ政府ノ發布シタル規定ニ準據スヘキ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十七條 領事裁判所管轄區域内ニ在ル土地ニ關シテハ勅令ヲ以テ民法第一千八百七條ノ趣旨ニ依リ抵當權地債又ハ定期負擔ノ保全ヲ確實ニスヘキ原則ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 民法第二千二百四十九條第一項ノ場合ニ於テハ遺言ハ第二千二百五十條ニ基キ證人三名ノ面前ニ於テ口頭ノ陳述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得第二千二百四十九條第二項ハ此場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 領事裁判所管轄區域内ニ對シテハ勅令ヲ以テ供托及ヒ供托所ニ關シ各邦ノ法律ニ留保セラレタル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 商事ニ付テハ第十九條ニ掲ケタル諸法律ノ規定ハ領事裁判管轄區域

内ニ行ハルル商慣習法ニ別段ノ規定ナキ場合ニ限り之ヲ適用ス

前項ニ所謂商事トハ商人ノ法律行爲ニシテ商法第一條第二項ノ種類ニ屬スルモノ並ニ裁判所構成法第一百一條第三號イ(ニ)(ホ)(ヘ)ニ掲クル法律關係ノ一ヲ目的トスル事件ヲ云フ

第五章 民事訴訟破産事件及ヒ非訟事件ノ手續ニ關スル特別規定

第四十一條 領事並ニ領事裁判所ニ於ケル民事訴訟手續ハ區裁判所ノ訴訟續手續ニ關スル規定ニ依ル但民事訴訟法第三百四十八條乃至第三百五十四條ノ規定ハ此場合ニモ之ヲ適用ス

第四十二條 婚姻ノ無効ヲ目的トスル訴訟ニ於ケル檢事ノ職務ハ領事ニ於テ辯護士ノ職務執行ヲ許サレタル者其他經驗アル裁判所職員又ハ領事裁判所管轄區域内ニ居住スル獨逸人若クハ保護民ニ之ヲ委任ス禁治産事件並ニ失踪宣告ノ爲メニスル公示催告手續ニ於テモ亦同シ

第四十三條 第七條第一號ニ依リ領事ノ管轄ニ屬スル民事訴訟ニ付テハ訴訟物ノ價格カ三百麻ヲ超過スルニ非サレハ控訴ヲ許サス



第四十四條 領事ハ民事訴訟法第五百七十七條第三項以外ノ場合ニ於テモ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ自ラ變更スルコトヲ得

第四十五條 控訴ハ領事ニ之ヲ提起ス控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス民事訴訟法第七十八條第一項ノ規定ハ控訴ノ提起ニ之ヲ適用セス控訴狀ハ民事訴訟法第七十九條ノ規定ニ準據シ職權ヲ以テ之ヲ相手方ニ送達シ領事ハ送達證明ヲ添へ訴訟記録ヲ大審院ニ送付スヘシ

大審院ハ職權ヲ以テ口頭辯論期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知スヘシ期日ノ通知ハ控訴審ニ於テ撰任シ且領事ヲ經由シ若クハ當事者ヨリ直接ニ正當ノ時期ニ大審院ニ届出テタル訴訟代理人又ハ送達代理人ニ之ヲ爲シ代理人ナキトキハ當事者本人ニ之ヲ爲ス

民事訴訟法第五百二十條ニ定メタル期間ハ辯論期日ヲ被控訴人ニ通知シタル時ヲ以テ始マル

第四十六條 領事裁判所管轄區域内ニ於テ領事裁判權執行ノ際ニ成立シタル執行力アル債務名義ニ基ク強制執行ハ領事裁判權ニ服スル者ニ對シテハ内國ニ

# 戶籍法令大全



# 第十七號目次

區制(三市并他ノ市ノ區制比較).....	一七
町村制ヲ施行セサル島嶼.....	一八
島根縣隱岐國ニ於ケル町村ノ制度.....	一九
北海道區制.....	二〇

頁數

ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ他區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス  
 區長ト區會トノ關係ニ付テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第九條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第十條 區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ區會ニ於テ之ヲ議決シ區會ナキトキハ市會之ヲ議決シ府知事ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

第十一條 本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

戶籍法令大全 第一條—第四條

第十條 區長ト區會トノ關係ニ付テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第十一條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第三條 區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セントスルトキハ市參事會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一七



○町村制ヲ施行セサル島嶼(明治二十二年一月十七日勅令第一一七號)

朕町村制ヲ施行セサル島嶼指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

町村制第三百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管内

小笠原島 伊豆七島

長崎縣下

對馬國

島根縣下

隱岐國

鹿兒島縣下

大隅國大島郡

大島 德ノ島

喜界島

沖永良部島

與論島

薩摩國川邊郡

硫黃島

黑島

竹島

口之島

臥蛇島

平島

中之島

惡石島 諏訪ノ瀨島 寶島

○島根縣隱岐國ニ於ケル町村ノ制度(明治三十七年三月十二日勅令第六十三號)

朕島根隱岐國ニ於ケル町村ノ制度ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 島根縣管下隱岐國ノ町村ニ町村制其ノ他町村ノ制度ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス但シ町村制其ノ他町村ノ制度ニ關スル法令ノ規定中郡長及郡參事

會ノ職權ニ屬スル事項ハ島司縣參事會ノ職權ニ屬スル事項ハ縣知事之ヲ行フ

此ノ場合ニ於ケル島司及縣知事ノ處分若ハ決定又ハ裁決ニ關シテ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二條 町村制ニ規定スルモノノ外命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ハ町村行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

附 則

第三條 本令施行ノ期日ハ縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第四條 本令ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム



(明治三十七年四月十三日  
內務省令第六號)

明治三十七年勅令第六十三號ハ明治三十七年五月一日ヨリ施行ス

### 北海道區制

(明治三十年五月二十九日勅令第五百五十八號  
改正三十二年第三七八號、三十四年第一九號)

#### 第一章 總則

##### 第一款 區及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ北海道ニ於テ區ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 區ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區畫トス但シ法律命令ニ依リ特ニ區ノ

區域ト符合セサル行政區畫ヲ設クルコトヲ妨ケス

區ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 區ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲シ又ハ郡内ノ町村ヲ變シテ區ト爲スコトヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

前項ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係アル區會及町村會ノ意見ヲ聞キ北海道廳長官之ヲ定ム

區ノ境界ヲ變更シ又ハ郡内ノ町村ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割スルコトヲ要スルトキハ一級町村制第三條ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ郡ノ境界ニ涉ルモノアルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

區ノ境界明ナラサルコトアルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

##### 第二款 區住民及其ノ權利義務(略)

##### 第三款 區條例及區規則

第七條 區ハ區住民ノ權利義務及區ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得

區ハ區有財産及區ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコ



トヲ得

區條例及區規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス  
區條例及區規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ區規則  
ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章 區行政

第一款 區吏員ノ組織及選任

第八條 區ニ區長及助役各一名ヲ置ク但シ區條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スル  
コトヲ得

區長及助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ六年トス

第九條 內務大臣ハ區會ヲシテ區長候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘ  
シ若其ノ裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシムヘシ  
區會ニ於テ區長候補者ヲ推薦セス又ハ其ノ再推薦ニシテ仍裁可ヲ得サルトキ  
ハ更ニ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ  
區費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ區長ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ內務大臣之ヲ定ム

第十條 助役ハ區會之ヲ選舉シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若其ノ認可ヲ得  
サルトキハ再選舉ヲ爲サシムヘシ

區會ニ於テ助役ヲ選舉セス又ハ其ノ再選舉ニシテ仍認可ヲ得サルトキハ更ニ  
選舉ヲ行ハシメ認可ヲ得ルニ至ルノ間北海道廳長官ハ臨時代理者ヲ選任シ又  
ハ區費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十一條 其ノ區公民ニ非サル者ト雖區長又ハ助役ニ選任セラルルコトヲ得此  
ノ場合ニ於テハ在職ノ期間ヲ限リ其ノ區公民權ヲ有ス

第十二條 區長及助役ハ第四十三條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス  
父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ區長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若區長  
トノ間ニ其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ助役ト  
ノ間ニ其ノ緣故アル者區長ノ任ヲ受クルトキハ助役ハ其ノ職ヲ失フモノトス  
助役數名アル場合ハ第四十三條第四項ノ例ヲ適用ス



第十三條 區長ハ内務大臣助役ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ營業其ノ他報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十四條 區長及助役ハ區會ノ同意ヲ得區長ハ内務大臣助役ハ北海道廳長官ニ申請シ其ノ認許ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ任意ニ退職ノ申請ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 區ニ收入役及收入役代理者各一名ヲ置ク但シ區條例ヲ以テ收入役代理者ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

收入役及收入役代理者ハ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及收入役代理者ハ區長又ハ助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其ノ他第八條第二項及第十條乃至第十四條中助役ニ關スル例ヲ適用ス但シ助役ト收入役又ハ收入役代理者トノ關係ニ於テ亦第十二條ノ例ニ依ル

收入役及收入代理者ノ身元保證金ニ付テハ區條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 區長助役共ニ故障アルトキ又ハ收入役收入役代理者共ニ故障アルト



●改正刑法二付キ新著書紹介ノ廣告

司法大臣	松田正久閣下題字
司法次官	河村讓三郎閣下題辭
大審院長	富谷銈太郎閣下序
內務省警保局長	古賀廉造閣下序
司法省民刑局長	平沼騏一郎閣下序
司法省參事官	谷田三郎先生校閱
日本法令審査會主事	谷田三郎先生校閱

（四版）

菊版四百八頁  
總クロース綴上製

定價

金壹圓五拾錢

送費金拾錢三部以上送費不要

# 新刑法實用

本書ハ逐條講義トシ各頁ヲ二段ニ區別シ上欄ニ舊刑法ヲ掲ケ、中欄ニ新刑法、

下欄ニ改正ノ理由ト説明トラ詳述ス

本書ハ未ダ江湖ニ顯ハレザル材料ニ依リテ編纂著述シタルモノナリ

申込所

東京市神田區今川小路三丁目六番地

明倫館

明治四十一年五月十五日發行（毎月一回十五日）

川和堂三三號



# 石籍叢書

號八十第

石籍學子會



○催告

本會質疑錄代并ニ叢書代御未  
納ノ向ハ已ニ新年度ニモ相成  
候ニ付爾後手數ト冗費トヲ相  
省ク様無遲滯至急御拂込相成  
度候也

明治四十一年五月

戶籍學會

戶籍法實用



## 第十八號目次

第二節

二五五

出生ニ關スル事項ニ付テハ幾多ノ實例複雑シ居リ發行日迄ニ其編纂ヲ完了シ得サリシカハ本號ニハ其掲載ヲ見合セ次號ニ二號分ヲ合セ掲載スルコトトセリ

## 第二節 出生

前 註

第二節ハ出生届出ニ關スル規定ニシテ之ヲ類別スレハ左ノ如シ

第一 届出事項ハ第六十八條ニ規定ス

第二 届出地ハ第六十九條第七十條ニ規定ス

第三 届出人ハ第七十一條乃至第七十四條ヲ規定ス

第四 棄兒ニ付テハ第七十五條第七十六條ニ特別ノ規定ヲ設ク

第五 届出前ニ死亡シタル場合ニ付テハ第七十七條ニ特別ノ規定ニ設ク

第六 航海中ノ出生ニ付テハ第七十八條ニ特別ノ規定ヲ設ク

右ノ規定ニ從ヒ届出アリタルトキハ登記及ヒ戶籍ノ記載手續ニ付テハ何等特別ノ規定ヲ設ケス單ニ通則ニ依ラシメタリト雖トモ其手續ニ關シテハ種々ノ疑問ヲ生ス故ニ此點ハ各條中關係アル字句ノ下ニ其説明ヲ爲スコトトシ民法上ノ説明モ亦同様ノ方法ヲ以テ掲クルモノトセリ



舊慣例集



一	弟ト兄ノ遺棄トノ婚姻	三三一
二	失踪戸主ノ遺兒ノ他家縁組	三三一
三	弟ト生死不明ノ兄ノ妻トノ婚姻	三三三
四	母死亡後ニ爲ス私生子認知	三三七
五	弟ト死亡ノ遺妻トノ婚姻	三三八
六	失踪養子戸主ノ縁組	三三九
七	二人ノ庶子ニシテ日ヲ異ニシ嫡出子ト爲リタル者ノ間ノ相續順位	三四〇
八	失踪長男ノ相續權	三四一
九	失踪ノ夫婦ノ離婚及ヒ離婚	三四一
十	幼年女戸主ト婚姻ノ豫約アル先代ノ養子トノ相續權	三四二
十一	戸主ノ母ト戸主ノ叔父トノ婚姻	三四二
十二	養子ノ入夫婚姻	三四四
十三	叔父ト亡甥ノ遺妻トノ婚姻	三四五
十四	生母タル妾ノ後見人資格	三四七
十五	長男アル者ノ養子ノ相續權及ヒ私生子ノ相續權	三四九
十六	弟ト亡養兄ノ女トノ婚姻	三五〇
十七	長男相續權ヲ失ヒタル後ニ於ケル二男ノ相續權	三五一
十八	亡縁嫡長男ノ子ト二男トノ間ノ相續權	三五二
十九	數人ノ女子間ノ相續權	三五三
	長女ヲ措キ二女ニ相續セシムルトキ長女ノ廢嫡	三五三
	外國人ト日本人タル女トノ婚姻	三五五

二十	同上ノ場合其間私生子アルトキ其國籍	三五八
廿一	戸主ノ母ト其亡夫ノ弟トノ婚姻	三六〇
	失踪戸主ノ長女ノ廢嫡	三六〇



福島縣知事伺 (二十二年十二月二十六日)

管下行方郡大壘村平民門馬首ヨリ亡兄遺妻結婚ノ義別紙ノ通願出候處右ハ不得  
止事情ト視認候間聞届苦シカラサル哉此段相伺候也

(別紙)

行方郡大壘村大字大壘字梨木下九十四番地平民

門馬首

私父酉之助儀本年七月二十七日死亡跡相續致候處私儀ハ當十一月七年七月、  
幼者ニ付亡父弟叔父伊助ヲ以テ後見人ト相定メ家事向萬端所辨爲致候ニ付同  
人ハ相當配偶者迎へ度存候得共當家ハ元來生計上困難ノ折柄亡父酉之助永々  
病氣ノ爲メ死亡後益々難澁ニ立至リ候ニ付親戚等叔父伊助ノ配偶者ニ關シ夫  
々協議致候得共前陳ノ如ク難澁者ナレハ相應ノ者無之去リトテ叔父伊助ヲ他  
ヘ遺候テハ生計上必至困難ヲ生スルハ必然ノ事ニ候然ルニ母チウ儀ハ父死亡  
後實家ヨリ復籍ノ儀屢々相談ノ次第モ有之不得止復籍爲致弟妹ノ養育上祖母  
エンヲシテ取扱候處實ニ多勢ノ幼者ニシテ到底祖母壹人而已ニテ行届兼斯ル



至難ノ場合ナルヲ以テ今般親戚一同協議ヲ遂ケ候處母チウヲ貰受ケ更ニ叔父伊助ト結婚爲致候外無之儀ト決定仕候右ハ人倫上難忍儀ニハ存候得共一家存亡ノ場合ニ付前陳ノ事情篤ト御洞察ノ上特別ノ御詮議ヲ以テ願意御聞届被下度戸籍寫及診斷書相添へ後見人及ヒ親戚連署ヲ以テ此段奉願候也(以下略)

司法大臣指令 (二十三年一月八日)

明治二十二年十二月二十六日庶第一四〇一號伺平民門馬伊助亡兄ノ遺妻ト結婚願ノ件ハ事情不得已モノニ付キ結婚聽許苦カラス

内務省總務局戸籍課長照會 (二十二年十二月二十七日)

失踪戸主ノ遺兒(孤獨ノ男子又ハ女子)ハ跡相續ヲナスヘキモノナレハ他家へ養子女ニ遺ス義難相成ハ當然ニ候得共該家ハ勿論親族モ皆赤貧ニシテ養育スヘキモノモナク其儘差置キ難キ場合ニ於テ右幼兒ヲ養子女ニ貰受ケ養育セントスルモノ有之トキノ如キハ一般ノ法律ヲ以テ可處事情トモ相異リ候義ニ付親族協議願出ルニ於テハ特別ヲ以テ廢嫡ノ上他家へ縁付ノ義差許シ相成可然哉明治九年二月三日當

省伺同年三月十三日正院指令第二條ノ趣モ有之候得共現今貴省御主管ノ件ニ付御見込承知致度此段及御照會候也

司法省民事局長回答 (二十三年一月十三日)

明治二十二年十二月二十七日戸第四九五號付ヲ以テ失踪戸主ノ遺兒(孤獨ノ男子又ハ女子)ニシテ該家ハ勿論親族共赤貧ニシテ養育スルコト能ハサル場合ニ於テ右幼兒ヲ他ヨリ養子女ニ貰受養育セントスルモノアルトキハ廢嫡ノ上特別ヲ以テ許可可然哉否ノ件ニ付意見御承知有之度旨御照會ノ趣了承右ノ場合ニ於テハ戸主タル父又ハ母カ其兒ヲ遺棄シタルモノナルヲ以テ明治九年二月三日御省伺同年三月十三日正院指令ノ旨趣ニ依リ棄兒同様他へ養子女ニ差遺候儀ハ差支無之ト致思考候此段及御回答候也

埼玉縣知事伺 (二十三年一月十日)

管下北埼玉郡大越村大字大越野出岩次郎義昨年九月暴風雨ニ際シ同村地先利根川ニ乗船誤テ覆没生死不分明ニ有之然ルニ父ハ老耄遺妻ハ乳兒ヲ擁シ生計上差



支候ヨリ弟竹次郎ヲ養子先ヨリ離縁復籍家督相續シ兄ノ遺妻ト結婚之願出候處取糺候處兄ハ遭難後今以テ音信ナキモノナレハ溺没死體ノ流失セシモノト推察セラル又遺妻ヲ要スル所以ハ遺妻ハ是迄家事向ヲ渾テ一身ニ引受老幼ノ保護厚ク一家ノ浮沈ニ關係候義ニ有之候間前書遺妻一旦離縁復籍之上ハ結婚之義許可候テ可然哉別紙願書及遺胤ナキ醫師ノ診斷書寫相添此段相伺候也

(別紙)

埼玉縣北埼玉郡大越村大字大越百六十八番地

平民野出岩次郎弟願濟ノ上相續人

野出竹次郎

明治四年十一月廿四日生

右野出竹次郎親戚奉申上候右竹次郎父野出清八儀ハ柔弱ノ上病身ニ付前戸主野出岩次郎去ル明治十六年十一月二十七日家督相續仕リ家務精勤致居候中母あき儀ハ去ル明治二十一年四月三日家死致シ其以來大ニ家事上ニ困却ヲ極メ其上前書清八義ハ持病相重リ病床ニ臥居罷在中本年九月十一日夜暴風雨ノ際前戸主岩

次郎外三名合四名ニテ利根川満水中ニ小船ヲ乗出シ激浪ノ爲小船轉覆流失シ四人共沈没致候ヘトモ内一人竹内藤兵衛ハ平素渡船越シノ業ヲ營ミ居候者丈ニテ里程二十餘丁程流サレ向岸ニ漂着シ漸ク萬死ニ一生ヲ得タレトモ他ノ三人ハ沈没流失致候ニ付其當日ヨリ必至搜索成タレトモ何分見當リ不申其内一人黒田七右衛門ノミ其當日ヨリ二十四日ヲ經過シ去ル十月五日ニ至リ死體發見シタレトモ前書岩次郎外一人ト二人ノ死體ハ發見致サス仍テ種々手ヲ盡シ搜索致スト雖モ終ニ發見致サス然ルニ右關係者中並ニ外一同推察スルニ二人ノ死體ハ遠ク漂流シ人目ニ觸レサル中腐敗シ體形ヲ失スル歟又ハ水中最深キ所ニ沈没致シ土砂ニ埋没セラレタルモノトノニツニ寄因スル者ナラント想像スルノ外ナク因テ無餘儀親戚一同篤ク協議ヲ遂ケ前書岩次郎弟竹次郎ヲ養子先ヨリ熟談上復歸致サセ去ル十一月二十六日本郡役所へ願濟ノ上戸主ニ相定家務從事致サセ候ト雖モ竹次郎ハ他家ニ在リシモノ故家事不馴ニテ萬端不都合ノミ又弟角三郎在リト雖モ此者ハ本年十五年八月月ニテ小兒同様ニテ家事助力ニハ相成ラス然ルニ岩次郎妻サクハ此迄深切ニ家事精勤致シ候上母病死ノ後ハ尙々家事向ヲ一身ニ引



受勉勵致シ父病氣ノ看護旁々本年四月出生ノ女子ヲ養育シ家事ノ關係ハ内外トモ心ヲ配リ懇篤ニ世話致シ居候中去ル九月十一日夜岩次郎ヲ失ヒ一家内ハ勿論親戚共ニ於テモ案外ノ事故只途方ニ暮レ昨年母病死今年岩次郎ヲ失ヒ重々ノ大災難ニ驚歎スルノ外ナシ去リナカラ前書サクハ該家ノ興廢ニ大關係有之モノニ付右サクヘ他ヨリ入夫ヲ貰受家務助力致サセ度親戚共ニ於テ苦慮致スト雖モ右岩次郎ノ死體モ發見致サス候ニ付夫レカ爲メカ相應ノ縁談モ無之困却罷在無餘儀再三親戚協議ヲ遂ケ踪跡相分ラサル岩次郎妻サクヲ一旦生家ヘ離縁復歸致サセ而ル後前書竹次郎ヘ右サクヲ再縁ノ上竹次郎妻ニ入籍シ右岩次郎長女ナミ成長ノ上ハ同人ヘ婿養子ヲ貰受相續致サセヘキ旨双方熟談相整ヒ候ニ付前陳一家存亡ノ場合ニ有之候間何卒特別ノ御詮議ヲ以テ前件ノ者共結婚ノ義御聞届被成下度新舊戸籍寫相添親戚一同連署ヲ以テ奉願上候也以下略

司法大臣指令 (二十三年一月十五日)

本年一月十日第一四號伺生死相知レサル兄ノ遺妻ト結婚願ノ件ハ事情止ヲ得サルモノニ付兄岩次郎死亡ノ事實明確ナルニ於テハ遺妻サク一旦實家ヘ復籍ノ上

ハ結婚聽許苦ラス

和歌山縣知事伺 (二十三年一月十五日)

分籍セシ單身女戸主私生ノ一男子ヲ擧ケタルニ其後該女戸主死亡セシニ依リ其私生子亡母ノ跡ヲ繼キ戸主トナリタリ然ルニ其私生ヲ(現今)己レノ子ト認メ町村長ノ許可ヲ請ヒ出テ候モノ有之(明治廿六年一月第廿一號布告但書ニ依ル)右ハ其生母已ニ死亡セルヲ以テ町村長ニ於テ之カ事實ヲ認メ難キモ亡母ノ親戚ヨリ事實ヲ證明スルトキハ之ヲ許可スルモノ差支無之哉此段相伺候也

司法大臣指令 (二十三年一月二十三日)

本年一月十五日甲第一三號伺私生子認可ノ件ハ認メラル、本人及亡母ノ親族事實ヲ證明シテ連署出願スルニ於テハ聽許不苦義ト心得ヘシ

福井縣知事伺 (二十三年一月十六日)

縣下越前國坂井郡加戸村加戸第七十四號十三番地平民亡大沼林道遺妻リウヘ該



林道弟天井靜教ヲ迎へ結婚ノ件出願候ニ付調査候處一家生計上不得止義ト被存候條願意聞届可然哉書類寫相添へ此段相伺候也

(別紙)

坂井郡加戸村加戸第七十四號十三番地

大沼林道遺妻

大沼 又 五

同 郡同 村覺善第十四號四十四番地

天井法教弟

天井 靜 教

右大沼又五夫ト大沼林道儀ハ本年六月十八日死亡候ニ付長男浩ヲ以テ家名相續可致筈ノ處該家ノ儀索ヨリ困窮者ニシテ資産等モ無之夥多ノ負債ヲ負爲該長男浩ヲ以テ相續仕候モ幼少之者ニテ當日之糊口且負債償却ノ方法モ不相立候ヨリ親屬一統協議ノ上前記天井靜教(亡林道弟)ヲ後夫ニ貰受長男浩及ヒ二男胖ノ繼父ト相定メ候ハ、兩子ノ爲ニハ叔父ナリ一舉ハ當日之糊口及負債返濟方之儀モ目的

可相立之旨親屬一統協議相調猶本人共納得之儀ニ御座候間何卒願意御聽許被下成度兩家全戸籍寫相添親屬一統以連署此段奉願上候也以下略

司法大臣指令 (二十三年一月二十三日)

本年一月十六日庶甲第五一號伺平民大沼又五亡夫ノ弟ト結婚願ノ件ハ事情止ヲ得サルモノニ付遺妻ハ一旦實家へ復籍ノ上更ニ結婚出願セハ聽許苦ラス

廣島縣知事問合 (二十二年十二月二十八日)

茲ニ養子戸主失踪シ養父七十年以上ノ老體ニシテ活計上困難ニ付他ニ相續人ヲ定メサレハ一家ノ浮沈ニ關スル事情ニ依リ養實家親戚熟議連署ノ上廢戸主離縁出願スル者有之是等ハ假令二十四ヶ月ヲ經過セサルモ聞届不苦乎尤該養家ニ尊族親無之場合ニ於テハ假令如何ナル事情アルモ二十四ヶ月ヲ經過セサレハ許可不相成ハ無論ノ事ト存候

司法省民事局長回答 (二十三年一月二十四日)

明治二十二年十二月二十八日庶坤第二四三五號ヲ以テ御問合相成候失踪ノ養子



戸主離縁ノ義ハ事情不得已モノニ限り失踪逃亡後十ヶ月ヲ經過シ養實親族協議ノ上連署願出ツルモノハ尊族親ノ有無ニ拘ハラス御聞届相成可然ト思考候

島根縣知事照會 (二十三年一月十七日)

茲ニ甲乙二人ノ庶子<sup>甲十五才</sup>ヲ有スル戸主アリ乙庶子ノ生母ト結婚シ乙庶子嫡出長男タリ他日其妻ヲ離縁シ更ニ甲庶子ノ生母ト結婚セルカ故ニ甲庶子亦嫡出タリ此場合ニ於テハ更ニ年ノ長幼ニ因リ長次男ノ順序ヲ改メ其長男タルモノ自ラ嗣子ノ權ヲ有スヘキ筋ナルヤ又ハ元甲庶子嫡出タリト雖トモ嗣子權ハ先キニ嫡出タリシ元乙庶子ニ在ルヘキ筋ナルヤ至急何分御答有之度此段及照會候也

司法省民事局長回答 (二十三年一月二十五日)

本年一月十七日付坤第四五號ヲ以テ庶子ニシテ嫡出トナリタルモノノ相續順序ノ件ニ付御照會ノ趣致了承候右ハ庶子ハ其父母ノ正婚スルノ日ヨリ嫡出子タルノ身分ヲ得ルモノニシテ年ノ長幼ニ拘ハラサレハ其相續順序ハ後段御意見ノ通先ニ嫡出トナリシ元乙庶子ハ元甲庶子ヨリ先ニ相續權ヲ有スヘキ義ト思考ス

沖繩縣知事伺 (二十三年一月十七日)

管下那覇久米村七十九番地士族有祿者湖城徳昌ナル者明治六年進貢北京大通事役トシテ渡清致居候處去ル二十年十一月同所ニ於テ死去候趣ヲ以テ長男湖城以正ハ家督相續爲致度旨出願有之候右以正儀ハ明治十二年五月廢藩置縣ノ後テ清國へ脱走于今歸縣不致者ニ有之候得ハ右脱走中自ラ相續權ヲ失ヘタルモノト見做シ聞届ヘキ筋ニ無之様被相考候得共未タ類例モ無之儀ニ付至急何分仰御指揮度此段相伺候也

司法大臣指令 (二十三年一月二十七日)

本年一月十七日付伺失踪長男へ家督相續ノ件ハ失踪ノ長男相續權ヲ失フモノニ非スト雖トモ失踪者ヲ以テ家督相續セシムルハ不相成義ト心得ヘシ

福島縣知事伺 (二十三年一月二十三日)

養子ニ婦ヲ迎ヒ配偶セシメタル後養子ハ二十年四月婦ハ十九年六月失踪シ二十四ヶ月ヲ經ルモ復歸セス依テ戸主ハ養子並ニ婦ヲ離縁セント欲シ出願之者有之



右ハ敢テ一家興廢ニ關係無之候ヘ其其行爲頗ル養父母之意ニ適セス復歸際限無之ヨリ親戚協議之上願出之儀ニシテ不得止事情ニ付聞届可然哉此段相伺候也

司法大臣指令 (二十三年二月三日)

本年一月二十三日庶第七八號伺失踪ノ夫婦離縁ノ件ハ失踪後二十四ヶ月經過ノ上ハ養實及夫妻兩家親族協議出願スルニ於テハ聽許苦カラス

愛知縣知事代理書記官問合 (二十三年一月二十三日)

先代ノ養子トシテ幼年女戸主ヘ追テ配偶ノ契約ヲ以テ他ヨリ入籍シタルトキ該女戸主ハ必ス直ニ其入籍男子ヘ家督相續ヲ讓ルヘキハ當然ノ議ト相考候得共一應及御問合候條至急何分ノ御回示相成度候也

司法省民事局長回答 (二十三年二月三日)

本年一月二十三日付庶外第九號ヲ以テ先代ノ養子トシテ幼年女戸主ヘ追テ配偶ノ約ヲ以テ入籍シタル男子家督相續ノ件ニ付御問合ノ趣了承右ハ御意見ノ通り直ニ養子ニ家督相續セシムヘキ義ト思考ス

福井縣知事伺 (二十三年一月二十三日)

縣下越前國坂井郡鶉村砂子坂第八號二十一番地平民藤田藤太郎ヨリ一家經營上ノ都合ヲ以テ母すいと叔父佐吉ト結婚ノ義出願ニ付取調候處右ハ事情不得止モノニ付聽許シ可然乎書類相添此段相伺候也

(別紙)

坂井郡鶉村砂子坂第八號二十一番地

平民藤田藤太郎母

す

文久三癸亥年十二月廿七日生

叔父 佐吉

萬延元庚申年九月六日生

右私家ハ從來商業ヲ以テ生計ヲ營ミ居候處過ル明治十九年八月八日實父佐平死亡候處爾來商業漸次不振ニ傾キ家計稍ヤ難澁ヲ來シ候ニ付テハ這般親類協議ノ上母すいとシテ叔父佐吉ニ配偶爲致度然ルトキハ一家經營上稍ヤ恢復ノ目途相



立候而已ナラス妹ひさを義モ未タ嬰兒ニアレハ之レカ保育ヲ爲スニ於テモ特更  
好都合ニ在之且ツ兩人共豫テヨリ熟望罷居リ候事故一ハ以テ家計ノ不如意ヲ調  
停候義ト確信罷在候間何卒特別ノ御詮議ヲ以テ兩人結婚ノ義御許容被成下度親  
類一統連署ヲ以テ此段奉願上候也(以下略)

司法大臣指令 (二十三年二月三日)

本年一月二十三日庶甲第八四號伺平民藤田藤太郎母叔父ト結婚願ノ件ハ事情止  
ヲ得サルモノニ付母<sup>ス</sup>イ一旦實家へ復籍ノ上ハ結婚聽許苦ラス

福島縣知事伺 (二十三年二月六日)

養子女養家ヨリ他家ノ養子女トナル事ヲ得サルハ現在養父母兩名ヲ有スル嫌ヒ  
有之ヨリ不相成筋ト存候處茲ニ甲家ノ子弟乙家ノ養子トナリ<sup>嗣子ニ非ス</sup>然ルニ後乙家  
ノ都合ニヨリ丙家ナル單身女戸主ノ入夫タラントスルハ差支無之候哉又ハ女戸  
主ノ先代<sup>女戸主</sup>ノ父母<sup>主</sup>ヲ亡養父母ト追稱スルヲ以テ一旦甲家へ復籍ノ上ニアラサレハ  
結婚不相成哉目下伺出ノ次第モ有之ニ付至急御指令相成度此段相伺候也

司法大臣指令 (二十三年二月十三日)

本年二月六日庶第一四四號伺養子女養家ヨリ直ニ他家ノ女戸主ニ入夫ノ件ハ新立  
女戸主ニ入夫タル場合ノ外ハ養家ヨリ直ニ結婚スルハ相成ラサル義ト心得ヘシ

福島縣知事伺 (二十三年二月十日)

縣下宇多郡松ヶ江村佐藤忠藏ヨリ二男巳之八ヲシテ亡甥文七遺妻カネト結婚爲  
致度旨別紙之通願出ニ付取調候處不得止事情ニ付カネヲシテ一旦實家へ復籍セ  
シメ更ニ結婚願出候ハ、聽許不苦哉此段相伺候也

(別紙)

福島縣磐城國宇多郡松ヶ江村大字小泉字高池

十一番地平民戸主

佐藤 巳之八

當時戶明治二年一月九日生  
當年二十一年

右巳之八儀ハ私二男ニ御座候處長男忠助明治十九年十二月十五日死亡孫文七



(忠助)儀、同二十年二月八日死亡引繼キ曾孫秋次郎文七ノ長男同年四月十日死亡家名繼承ス可キ者三名ニマテ死去セラレ困難不得止二男巳之八ヲ以テ戸主ニ致候處自分儀老體ニ趣キ家事向總テ二男巳之八ヲ以テ所辨爲致來候處同人義モ最早二十年以上ニ相成候ヘハ相當ノ配偶者ヲ迎ヒ度存候ヘ共當家ハ長男及ヒ孫共ノ死亡後益生計上困難ニ陥リ殊ニ老衰ノ私ヲ始メ幼者數名有之家業勞力ニ耐ユルハ孫卵之助及ヒ婦カネ(七ノ孫文ノ妻)ノ外無之ニ付巳之八ノ配偶者ニ關シテハ深ク配慮致候ヘ共相應ノ者不相見罷在候處當婦カネ儀ハ未タ壯年ノ事ニ候故此未嫁期ヲ失スルヲ憂ヒ實家ヨリ復籍ノ儀屢々來談ニ及ハレ候ヘ共其意ニ任セ同人復籍爲致候時ハ忽チ孫共ノ養育上差支右ハ善助及同人妻子共ハ明治二十年前ヨリ別居致シ近々壹戸新立ノ決定ニテ當然庖厨ノ任ニ當ルヘキ者無之實ニ一家ノ浮沈ニ相關候事實ニ御座候依之今般親戚會同ノ上又篤ト協議ヲ遂ケ候處婦カネヲ一旦實家ニ復籍爲致更ニ二男巳之八(當時戸主)ト結婚爲致候外無之儀ト決定仕候間弊家存亡ノ關スル處ナルヲ篤ト御洞察ノ上願意御聞届被成下度戸籍寫相添ヘ親戚連署ヲ以テ此段奉願候也以下略

司法大臣指令 (二十三年二月十九日)

本年二月十日庶第一五八號伺平民佐藤忠藏二男巳之八亡甥ノ遺妻ト結婚ノ件ハ伺ノ通聽許苦ラス

京都府知事伺 (廿三年二月七日)

第一條 後見人十儀ハ幼戸主之祖父母父母祖父母及母ハ祖父又等ニ於テ自ラ後見人トナリ又ハ祖父母父母等ノ存意ヲ以テ他人ヲ後見人ト定ムル場合ニ於テハ親族ノ協議ヲ要セサル旨曾テ内務省御指令ノ趣モ有之候處死亡庶子長男跡相續ヲ爲スモ幼少ナルヲ以テ其生母即チ父ノ妻ニシテ刑ニ於テ後見人トナル法施行前入籍セシモノ旨届出候者有之右ハ前顯同様親族ノ協議ヲ不要届書受理シ可然哉將妾ハ法律上親族ト認メサルモノニ付親族協議ノ上ナラテハ後見人タルヲ得サル儀ニ候哉

第二條 前條生母ニ於テ自ラ後見人タル旨届出ニ際シ親族中異議ヲ生シ議論ニ派ニシ一ハ之レニ左祖シ一ハ親族中ヨリ後見人ヲ定メ双方共ニ届出候是等ハ



双方協議整ハサルニ於テハ法衙ノ處分ニ任スヘキ義ニ候哉

司法大臣指令 (廿三年二月十七日)

- 第一條 親族協議ノ上ニアラサレハ後見人タルヲ得サルモノトス
- 第二條 親族協議整ハサルトキハ裁判所ノ處分ヲ受ケシムヘキモノトス

岩手縣知事伺 (廿三年二月六日)

本年一月廿五日甲第二〇五六號家督相續ノ義伺書中不明瞭廉取調御答致スヘキ旨本月一日民刑第二一四號ヲ以テ御照會ノ趣了承即チ別紙願書并戸籍寫及御回付候間御承知相成度此段及御回答候也

(別紙)

盛岡市三戸町百七十五番戸

平民龜助長男

三澤 由 松(黒書)

盛岡市三戸町百七十五番戸

平民龜助長女キヨ夫

養子 三澤 庄 吉(朱書)

右黒書之者拙者長男ニテ嗣子罷在候處同人商法仕度ニ付盛岡市上田組町六十四番戸ヘ分家仕度情願ニ付親類共協議仕候所決定仕嗣子之義ハ前記朱書之者ヲ以テ嗣子ニ取据之義トモ親類協議決定仕候間御許容被成下度此段連署ヲ以テ奉願上候也

司法大臣指令 (廿三年二月十七日)

本年一月廿五日甲第二〇五六〇號伺家督相續ノ件ハ養子ヲ相續人ニ定ムルコトヲ得但私生子ハ其父母ノ正婚ニ因リ嫡出トナルカ又ハ私生子ノ外他ニ相續スヘキモノナキ場合ニアラサレハ相續人ト爲スコトヲ得サル義ト心得ヘシ

愛知縣知事伺 (廿三年二月十八日)

縣下西春日井郡尾張村大字小針長谷川亦藏ナル者其姪ミツト内輪配偶ヲ爲シ既ニ女子出生ノ趣ヲ以テ結婚ノ義出願ノ處右ハ道義ニ紊亂スルモノニ付允許シ難



キ義ト心得可然哉願書及戸籍寫相添此段相伺候也  
(別紙)

尾張國西春日井郡尾張村大字小針已新田七拾

六番戸平民離縁養兄庄七相續人亡父又右衛門

二男

戸主 長谷川 亦藏

安政元年四月十七日生

離縁養兄庄七長女

姪 み つ

慶應三年七月三十日生

右ハ私共親族ニシテ亦藏ハ亡又右衛門ノ二男ニシテ庄七ハ該又右衛門ノ長女亡  
さとの婿養子ニテ又右衛門ノ相續人タリシ庄七ノ跡相續人ニ御座候而シテみつ  
ハ庄七ノ長女ニシテ則亦藏ヨリハ血統ノ姪ナリ然ルニ元來該長谷川家ハ洗フカ  
如キ赤貧ニシテ亦藏ノ妻ニ應スルモノナク又みつヲ嫁セシメントスルモ嫁スル

ヲ得サル次第ニテ彼是兩名同居罷在候中終ニ倫理ヲ亂シ私通本月八日女子分曉  
仕候私共之ヲ聞クヤ驚入爾來百方離絶方ニ盡力仕候得共如何セン赤貧ノ中之ヲ  
離絶セントスルトキハ勿論其子ノ養育ニ干シ且ハ前顯ノ次第ニテ兩名トモ配偶  
者ヲ得ル不能ノミナラス元來愚昧ノモノニテ倫理如何モ難辨候付其實離絶ノ場  
合ニ難至様ニ被存候最早此上ハ結婚ノ御特許ヲ蒙ルノ他無御座候間親類及ヒ本  
人共連署ヲ以テ此段奉願上候條宜敷御詮議被成下度候也  
但私共親族モ又愚昧ニシテ情由ノアル處ヲ悉ク本願ニ難書候得共全ク倫理ヲ  
亂シ斯ク出願之者尤モ他ニ術策相盡キ萬不得止ニ出候儀ニ御座候ハ、願意ノ  
不盡ナルニモ不拘御特許ヲ蒙リ度譯テ願添候也

司法大臣指令 (二十三年二月廿一日)

本年二月十八日天席第二〇九一號ノ内三伺叔姪結婚ノ件ハ結婚不相成義ト心得  
ヘシ

福島縣知事伺 (廿三年二月十九日)

舊慣例集 二十三年分

ろ

二五二



一戸主ニ於テ長男死亡又ハ無事事故ヲ以テ廢嫡スルトキハ相續權直ニ二男ニ移ルヘキヤ將タ二男ヲ以テ特ニ嗣子ト定メサレハ相續權無之哉

一果テ後段ノ通ナラハ二男ト養子孰レヲ以テ相續セシムルモ戸主ノ選定ニ任セ廢嫡ノ手續ヲ履行スルニ及ハサルヤ

一若長男及ヒ孫(長男ノ長女)同事故ニテ廢嫡スルトキハ以下ノ孫(長男ノ弟)下長男ノ弟(戸主)孰レヲ以テ相續セシムルモ不苦哉

司法大臣指令 (二十三年二月二十七日)

第一條 相續權直ニ二男ニ移ルモノトス

第二條 前條ニ依リ了解ス可シ

第三條 以下ノ孫ニ於テ相續權ヲ有スルモノトス

和歌山縣知事伺 (廿三年二月廿一日)

家督ヲ相續スヘキ男子ナキトキ女子相續スヘキハ勿論ニ候處女子ノミ數名有之場合ニ於其相續人ハ長幼ノ順序ニ依ラス戸主又ハ親族ノ協議選定スル處ニ從フ

ハ從來ノ慣習ニ有之且長女ヲ他ヘ差遣スモ二女有之場合ニ於テハ廢嫡ノ手續ヲ要セサル旨趣ハ別紙寫之通去ル明治十六年中滋賀縣伺ヘ御指令有之今之レヲ推考スルニ女子ハ男子ト異ニシテ一家中ニ男子ナキトキ女子相互ニ同等ノ相續權ヲ有スルモノトスルニ外ナラス候得共己ニ男子ハ長幼ノ順序ニ依リ逐次相續權ヲ有スルモノナレハ女子ニ限リ其順序ヲ逐ハサルハ穩當ナラサル様被存候ニ付不得止事故アリテ長女ヲ擱キ二女ヲシテ相續セシムルトキハ男子同様廢嫡ノ手續ヲ要スヘキ義ニ候哉此段相伺候也

(別紙)

滋賀縣令伺 (十六年五月三十日)

一女子ヲ廢スルハ廢嫡ト心得ヘキ旨嘗テ御指令ノ次第モ有之候處右一女子トハ獨女ヲ指シタル義ニテ例ヘハ此ニ長男二男長女ヲ有スルモノアリ其長二男ハ故アリ許可ヲ經タル上他ヘ養子ニ遺シ目下長女一人ノ外他ニ男女子無之如此場合ニ於テハ相續ノ順序ヲ云ヘハ該長女ヘ婿ヲ迎ヘ相續セシムヘキ勿論ニ候得共若シ事故アリ他ヘ差遣候節ハ廢嫡ト申譯ニ無之候得共戸長ヘ届出サセ候



ノミニテ可然哉

前項長女ノ外二女三女ヲ有スルモノアリ如此場合ニ於テ該長女ヲ他ヘ縁付候義ハ出願ヲ要セザル慣例ニ有之候得共條理ヲ推セハ獨女ト獨女ニアラサルトノ區別ヲ以テ廢嫡ノ手續ヲ盡サシムルト其手續ヲ盡サシメサルトノ區別ヲ立ルハ允當ナラサル様ニモ存候得共女子ニシテ總領男子同構ノ權利ヲ有スルハ一女子ノ外他ニ男女子トモ無之獨女ニ限ル義ニシテ二三女子アル長女ハ其二女三女已ニ他ニ嫁シ又ハ死亡ト否トニ拘ハラス廢嫡ノ手續ヲ盡サスシテ他ヘ差遣候トモ苦シカラサル義ト相心得戶長限リ取扱ハサセ可然乎

内務卿指令 (十六年六月十六日)

書面伺之趣假令長次男又ハ次三女アルモ他ヘ遣シ現ニ長女而已アル場合ニ於テハ廢嫡ト可心得事

司法大臣指令 (廿三年二月廿七日)

本年二月廿一日一甲第七一號伺女子相續權ノ件ハ後段伺ノ通

外務大臣照會 (廿三年二月十四日)

橫濱在留英國人「エヌ、ピ」キングドンナル者ト日本婦女歌川ムラトノ間ニ舉ケタルキング、キク、キングドンナル者ノ國籍ニ關シ客年十月英國公使ヨリ本大臣ヘ問合セノ次第有之依テ爾來貴省及内務省ト數回ノ照復ヲ重ネタル末本年一月十五日帝國政府ハ同人ノ父母正當ニ結婚シタルモ本人出生ノ當時ニ於テハ未タ其間ニ夫婦タルノ關係ナク本人ハ私生子ナルカ故ニ其母ノ國籍ニ從フヘキモノナルヲ以テ當然帝國臣民ト認ムル旨同公使ヘ回答致シ候然ルニ英國公使ハ右帝國政府認定ノ基因スル所ノ理由ヲ可成詳細ニ了解センカ爲メ左ノ事項致承知度旨更ニ本月三日別紙寫ノ通本大臣ヘ致照會候

- (一) 一男一女結婚シタル場合ニ其結婚ノ果シテ有效ナルヤ否ヤヲ決スヘキ帝國ノ法律如何
- (二) 兒子出生シタル場合ニ其正出ノ子ナルヤ將タ私生子ナルヤヲ決スヘキ帝國ノ法律如何
- (三) 出産ノ當時私生子タル者ト雖モ其後ニ至リ父母結婚シタルカ又ハ其他ノ



事由アル時ハ之ニ依テ公出ノ子タルコトヲ得ヘキ乎此點ニ關スル帝國ノ法律如何

(四) 右等ノ事項ニ關スル帝國ノ法律ハ何ニ據テ之ヲ知ルヲ得ヘキ乎  
私生子出產ノ當時母日本人ナルトキハ其後ニ至リ父母結婚スルモ私生子

ハ依然帝國臣民タル分限ヲ保有ストノ帝國政府ノ意見ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ適用セラルヘキ乎例ヘハ、キング、キングドント同一ノ場合ニ於テ若シ其父佛國人ナル時ハ其佛國人ノ子ハ佛國ノ法律ニ依レハ當然公出ノ子タルヘキモ尙ホ帝國政府ハ之ヲ以テ帝國臣民ト認ムヘキ乎

右英國公使照會ノ趣意ハ前數項ニ關スル帝國ノ現行法ヲ致承知度ト云フ儀ニ有之候得共當省ニ於テハ充分ノ調査ヲ難遂何レモ貴大臣主管ノ事項ニ有之候間至急御調査之上御回答有之度此度及御照會候也

司法大臣回答 (廿三年二月廿八日)

本年二月十四日送第二三號ヲ以テ私生子ニ關スル義ニ付御照會ノ趣了承右御照會書中第一問第二問第三問ニ對シテハ別紙ノ通ニ有之候第四問中布告ニ係ル分

ハ太政官ノ編纂ニ係ル布告全書ニ依リテ之ヲ知ルヘク又太政官ヨリ單行ノ裁令ニシテ人民ニ向テ直接ニ公布セサルモノハ所轄官廳ノ記録ニ就テ知り得ヘキ筈ニ有之候第五問ハ、キング、キングドントノ如キ場合ニ於ケル内外人ノ間擧ケタル私生兒ヲ嫡出トナスト否トハ其父ノ本國法ニ從フヘシト雖トモ其國籍ノ問題ニ至リテハ假令其父佛國人ニシテ其國ノ法律ニテハ當然嫡出ノ子タル場合アリトスルモ、キング、キングドント同一ノ決定ヲ下スヘキ本官ノ意見ニ有之候此段及御回答候也

追伸當時編纂ノ民法草案ニ於テハ多少本件ノ諸項ヲ變更シタル點モ有之候條御合迄申進候也

神奈川縣知事伺 (廿三年二月廿八日)

管下大住郡須馬村平民杉山權次郎幼年ニ付祖父久左衛門後見人致來候處赤貧無資力ニシテ一家維持難致ニ付亡長男遺妻トヨヲシテ三男兼吉ヘ配偶セシメ幼戶主權次郎ノ後見人ト相定メ度別紙ノ通り出願ニ付取調候處無餘儀事情ノモノト



認メ候條聞屈可然哉此段相伺候也

(別紙)

大住郡須馬村須賀

第一千二百二番地平民

戸主 杉山權次郎

祖父 久左衛門

右私長男市五郎儀客年八月廿八日病死致シ候處私義ハ無資力赤貧ニシテ漁業ニ從事シ男長市五郎ノ勞力ヲ待ツテ乏シク毎一日ノ生活ヲナシ來リ且二男富五郎ハ他郡區ニ出稼スルモ是等モ家族多人數ニシテ己レノ生活ニ困難シ亦三男兼吉アルモ何レエ寄留セシヤ所在判明セス他ハ婦女子及ヒ老人ノミニシテ一家生計之補助スルモノ無御座殊ニ孫權次郎儀ハ幼年ニシテ于今力役ニ絶エス長男市五郎死亡以來一家一同糊口ニ迫リ加之苦辛ノ餘リ獨リ愚妻ハ不幸ニシテ持病ヲ發シタルモ醫術ヲ受クル手段無之只家計ト困難トニ心々吸々トシテ其患者モ空シク捨置ク場合ニ至リ此儘姑息ニスル上ハ一家ノ細烟モ難結且

飢活ニ陥ランノミ仍テハ三男兼吉ノ勞力ヲ受ケスンハ家族一同餓死スルノ狀況ニ至リ候ニ付右三男兼吉ノ所在搜索ノ上飯宅候ニ付テハ止ヲ得サル儀ニ付乙長男ノ妻トヨハ一旦生家エ離縁シ然シテ更ニ三男兼吉ヘ離縁ノ婦トヨヲ貰受ヲナシ結婚致サセ一家ノ老人并ニ婦女子ノ生活ヲ養ナハセ併セテ患者ノ注意ヲ爲致候ハハ永續可致ト存シ候ニ付一同協議相整イ候乍併私義老衰ノ身ヲ以テ是マテ幼年戸主權次郎ノ後見人致居候得共何分家務ヲ處理致兼候ニ付本願御許可ノ末ハ私義ハ後見人タルコトヲ罷メ孫戸主權次郎ノ生長マテ右兼吉ヲ以テ後見人ト致度義ニ有之候且婦トヨハ市五郎死亡後未タ三百日以内ニ候得共先夫ノ遺胤更ニ無御座最モ別紙醫師ノ診斷シタル證明書相添候ニ付テハ前陳之事實ニ相違無御座候間願意御聽許被成下度戸籍寫相添エ連署ヲ以テ此段奉願候也

司法大臣指令 (廿三年三月五日)

本年二月廿八日庶第十九號伺平民杉山權次郎母亡夫ノ弟ト結婚願ノ件ハ事情止ヲ得サルモノニ付母トヨ復籍ノ上ハ聽許苦ラス



人事判例集



第十八號目次 (明治三十三年分)

○特別代理人ノ選任手續

頁數

○施行前ノ後見人ノ資格

一九一

一九五

人事裁判例集

モ子カ訴ヲ提起スルニハ必ラスシモ其父母ト共同スヘシトノ規定アルコトナシ  
況ンヤ本案ノ婚姻成立ハ民法施行以前ニアルヲ以テ民法第七七十二條ヲ適用  
スヘキモノニアラサルニ於テオヤ故ニ此點ハ全ク法律ノ誤解ニ出テタル論告ニ  
シテ毫モ其理アルコトナシ  
上告第三點ハ原判文ニ於テハ同居ノ事實ヲ以テ當事者間ノ婚姻ハ適法ニ成立セ  
ラレタルモ同居事實ハ何故ニ婚姻成立ノ事實ヲ認メ得ヘキ更ニ其理由ヲ明示セ  
ス是レ理由不備ノ不法アリト云フニ在リ然レトモ原判文ヲ査閱スルニ原院ハ當  
事者間ニ於テ婚姻ノ儀式ヲ舉行シタル事ト爾來トモ同居シタルコトヲ以テ  
其成立ヲ認メタルモノニシテ單ニ同居ノ一事ヲ以テ其成立ヲ認メタルモノニア  
ラス而シテ其理由ハ原判文ニ於テ明瞭ナリ故ニ此點ハ全ク原判文ノ誤解ニ出テ  
タル論告ニシテ毫モ上告ノ理由アルコトナシ  
上告第四點ハ原判文ニ於テハ同居ノ事實アルモ上告人カ自己ノ妻トシテ入籍  
セシムル意思ナカリシコトヲ主張スルモ其立證ナシトシテ同居ノ事實ハ婚姻成  
立ノ證據充分ナルカ如ク説明セラレタルモ單ニ同居ノ事實カ婚姻成立ノ事實ヲ



認め得サルコトハ敢テ論ヲ俟タサルヘシ然レハ婚姻成立ヲ主張スル者ニ於テ其事實ノ立證ヲ爲スノ責任アリ然ルニ原院ハ立證ノ責任ヲ轉解シ婚姻不成立ノ證據ヲ上告人ヲシテ舉證セシメントセシハ證據法ニ違背シタル不法アリト云フニ在リ然レトモ既ニ説明シ來レルカ如ク原院ハ同居ノ一事ヲ以テ婚姻ノ成立ヲ認メタルニアラサルノミナラス上告人ニ於テモ既ニ婚姻ノ儀式ヲ舉行シ爾來被上告人ト共ニ同居シタルニ事實ヲ認めナカラ尙且自己ノ妻トシテ入籍セシムルノ意ニアラス即チ其婚姻ノ假設ナリト主張スルカ故ニ原院ハ之ニ對シ其證左ナキヲ以テ信シ難シト判定シタルコトハ原判文ノ明示スル所ナリ故ニ原判決ハ上告論旨ノ如ク舉證ノ責任ヲ轉倒シタルコトナシ

以上説明セシ上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照シ主文ノ如ク判決ス

### ○特別代理人ノ選任手續

(明治三十三年一月二十七日第一民事部判決)

右當事者間ノ相續取消並正當相續確認事件ニ付大阪控訴院カ明治三十二年二月

六日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

立會檢事古賀廉造ハ意見ヲ陳述シタリ

#### 判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告人ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔スヘシ

#### 理由

本件上告人ニ付被上告人ハ本案ニ關スル辯論前以下ノ抗辯ヲ提出シタリ第一本件ハ大橋麟太郎ヲ上告本人トシ大賀阪造ヲ其特別代理ナリト稱シテ提起シタル上告事件ナリ然ルニ原院ノ判決ハ大賀阪造對被上告人ニ言渡サレタルモノニシテ大賀阪造ハ大橋麟太郎ノ特別代理人トシテ判決ヲ受ケタルモノニ非ラス原判決ハ大橋麟太郎ヲ訴訟當事者トシテ表示セス即チ麟太郎對被上告人大橋峰間ノ判決ハ原院未タ之ヲ爲サ、ルモノナリ而シテ法律ハ訴外人ニ於テ上告ヲ爲ス權利アルコトヲ認メス又假リニ原判決ノ表示ヲ以テ著シキ誤謬若クハ脱漏ナリト



セシカ上告人ハ法律ノ規定ニ從ヒ相當期間内ニ更正若クハ補充ノ申立ヲ爲スハ格別前述ノ如ク大賀阪造一己ノ名義ニ於テ受ケタル判決ニ對シ大橋麟太郎ノ名義ヲ以テ上告ヲ爲スハ其當ヲ得サルモノナリトノ第二本件ハ上告人大橋麟太郎特別代理人大賀阪造ノ名義ヲ以テ提起シタル上告事件ナリ被上告人ハ大賀阪造ノ特別代理人タルコトヲ認メス同人ハ民法第八百八十條ノ規定ニ依リ選任セラレタルモノニ非ス果シテ然ラハ同人ハ適法ナル特別代理人ニアラサルヲ以テ上告人ヲ代表シ訴訟行爲ヲナスノ權能ヲ有セス從テ本件上告ハ不適法トシテ棄却セラレヘキモノナリトノコト乃チ先ツ辯論ヲ上掲抗辯ニ關スルモノニ制限シタリ○因テ先ツ第二抗辯ニ付キ按スルニ親族會ノ未タ設ケラレサルヤ招集請求ノ權アルモノハ本人戸主親族後見人後見監督人保佐人檢事又ハ利害關係人ナルコトハ民法第九百四十四條ノ規定スル處ニシテ而シテ無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ最初ノ招集ヲ除ク外之ヲ招集スル權アルモノハ本人其法定代理人後見監督人保佐人又ハ會員ナルトハ同法第九百四十九條ノ規定スル處ナリ是故ニ親權者ハ同法第八百八十八條ノ規定ヲ須タスシテ前記二條ノ規定ニ依リ親族會

招集ノ請求ノ權若クハ招集ノ權アルヤ固ヨリ論ヲ待タス然リ而シテ特ニ同法八百八十八條初項ノ規定アル所以ノモノハ其未成年ノ子ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キス此ヲ以テ民法第九百四十四條及第九百四十九條ニ規定シタル親權者以外ノ者ノ權能ヲ制限シタルニ非サルナリ然レハ即チ上告人ノ親權者タル被上告人カ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求セサルニ因リ其實父小橋善次郎ノ請求ニ基キ招集セラレタル親族會ニ於テ選任シタル大賀阪造ハ適法ノ特別代理人タルコト誠ニ明白ナリ故ニ第二ノ辯ハ理由ナキモノトス更ニ翻テ第一ノ抗辯ニ付キ按スルニ上告人カ本件上告人ニ依リテ破毀ヲ求ムル原判決ニハ當事者トシテ大賀阪造ト大橋峯トヲ掲グルノミニシテ大橋麟太郎當事者トシテ表示セス大賀阪造ヲ大橋麟太郎特別代理人トモ表記セス然レハ原判決ハ大賀阪造ト大橋峯トノ間ニ言渡サレタルモノト爲サ、ルヲ得サルヤ勿論ナリ況ンヤ原判決ハ其理由ノ説明ヲ觀ルモ大賀阪造其人ヲ當事者トシテ大橋麟太郎ノ特別代理人トセスシテ爲シタルモノナルコト瞭然タルニ於テオヤ然ルニ本件上告ハ大橋麟太郎特別代理人大



賀阪造ヨリ大橋峯ニ對シテ提起シタルモノナルコト上告狀ニ依リテ明確ナリ夫レ然リ然ラハ本件上告ニ依リテ原判決ノ破毀ヲ求ムル上告人ハケ原判決ヲ受タル者ニ非ラス而シテ原判決ノ當事者ニ非サル者ヨリ原判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得サルヤ牒々スルノ要ナカルヘシ之ヲ要ルニ本件上告ハ不適法トシテ棄却スヘキモノトス是レ主文ノ判決ヲ爲ス所以ナリ

### ○施行前ノ後見人ノ資格

明治三十三年一月二十六日第二民事部判決

右當事者間ノ土地取戻シ並ニ公證及登記取消請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十一年三月九日言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告代理人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

#### 判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告ニ係ル訴訟費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

上告理由第一點ハ原裁判ニ於テ係争地ハ乙第一號證ノ如ク上告人陸藏ノ所有ニ

屬シタルモノナレトモ先代亡傳吉ノ名儀トナリ在リタルニ付亡傳吉ヲ賣渡人トシ未成年者ナル上告人陸藏ヲ其代理人ト爲シ而シテ上告人ノ親族宮川鐵五郎並ニ出梨傳兵衛ナル者右賣主ノ保證人トシテ連署シタリトノ事實ヲ認メ以テ本件地所ハ適法ニ賣買セラレタルモノナリト判決セラレタリ

凡ソ未成年者ノ不動産賣買ニ付テハ其證書ニ於テ後見人之ヲ代表シ且ツ親族ノ連署ヲ要スルハ明治十六年七月内務省番外達以後一般ニ公認セラレタル習慣法ナリトス依テ之ヲ反言セハ未成年者ノ不動産賣買ハ必スヤ其後見人ニ依リ代表セラレ且ツ親族ヲシテ連署セシムヘキ一種ノ要式行爲ニ外ナラサル也左レハ此手續ヲ經由セサル以上ハ未成年者ノ不動産賣買ハ法律上無効ノモノタルヤ當然ノ筋合ナリトス

依テ原裁判ニ於テ前示ノ如ク未成年者ナル上告人所有ノ不動産ニ付此法式ヲ經由セスシテ上告人カ亡傳吉ノ代理人トシテ係争地所ヲ賣買シタルカ如ク記載セル乙一號證書及公證手續ヲ以テ適法ナリトセラレタルハ右法則ニ反スル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ然レモ未成年者ノ不動産賣却ニ關スル明治十六年七月



内務省番外達ハ賣渡證書ニ後見人ノ代表及ヒ親族ノ連署スルヲ以テ賣買ノ要式ト爲シタルニアラスシテ親族ノ承認ヲ要スルノ趣旨ナリ又民法施行以前ニ於テ未成年者ノ不動産ヲ賣却スルニ付後見人ノ代表及ヒ親族ノ連署ヲ以テ其要式ヲ爲スノ習慣アルコトハ本院判決例ノ認メサル處ナリ而シテ原判決ノ認定ニ依レハ乙第一號證ノ契約ハ後見人タル手續ヲ盡サ、ルモ事實上後見人ノ職ヲ執リ居リタル宮川鐵五郎カ未成年者陸藏ノ爲メニ締結シタルモノニシテ親族タル山梨傳兵衛カ之ニ連署シタル事實ナレハ原判決ニ於テ該第一號證ノ賣買ヲ有效ナリト認定シタルハ違法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ適法ノ理由ナシ

其第二點ハ原裁判所ハ一面然レハ陸藏ハ當時五藏未滿ノ幼者ニニシテ而カモ後見人ノ設ナカリシ事ハ當事者ノ認ムル處ナルヲ以テ云々ト判決シ則チ上告人ノ爲メ後見人ノ設定ナカリシ事實ヲ認定シナカラ其後段ニ至リ單ニ宮川鐵五郎ナル者ハ上告人ノ不動産ニ付處分行爲ヲ爲シツ、アリタリトノ事實ヲ判示シ以テ乙第一號證ニ保證人トシテ連署シタルハ則チ事實上ノ後見人タル資格ニ於テ違署シタルト結論セラレタリ

## 外國婚姻令集



# 第十八號目次

に頁數  
三二ノ一九

獨逸領事裁判法

## ◎注意◎

爾來英國法ノ分ヲ掲載し居リタルモ獨逸領事裁判法ハ立法上參考ト爲ルヘキ點點ナカラサルヲ以テ特ニ掲載スヘシトノ命ニ因リ本號マテ數次ニ之ヲ連載スルコトトシタレハ讀者宜シク之ヲ獨逸國法ノ分ノ後ニ繰リ込マレタシ

於ケル強制執行ニ關スル規定ニ依リ之ヲ爲ス其他ノ場合ニ於テハ領事裁判權ニ服スル者ニ對シ領事裁判所管轄區域内ニ於ケル強制執行ハ民事訴訟法第七百九十一條ニ從ヒ領事ニ宛テタル囑託ニ基キ領事之ヲ爲ス

第四十七條 破産法第一百十條第七十九條ノ場合ニ於テハ特別管財人ノ撰任及ヒ債權者集會ノ招集ニ關スル決定ノ期日並ニ協諾期日ハ二箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ手續ヲ爲ス領事裁判所ノ管轄區域カ歐羅巴埃及又ハ黑海若クハ地中海ニ面スル亞細亞沿岸ニ在ラサルトキハ該期日ハ三箇月マテ之ヲ延長スルコトヲ得

破産法第三百三十八條ニ依リ届出期間ノ經過ト一般審査期日トノ間ニ存スヘキ期間ハ二週間以上三箇月以内タルコトヲ要ス

破産法第五百二十二條第二百三條ニ定メタル期間ハ一箇月トシ第二項ノ場合ニ於テハ二箇月トス

第四十八條 非訴事件手續法第十八條第二項ノ規定ハ抗告ニ依リ不服ヲ申立テ



ラレタル領事ノ命令ヲ之ニ適用セス

第六章 刑法ニ關スル特別ノ規定

第四十九條 領事裁判所管轄區域所在地政府ノ發布シタル刑法ハ慣習又ハ條約ニ依リ定マリタル程度ニ於テ同區域内ニ之ヲ適用ス

第五十條 普漏西國內ニ於テ普國普通州法ノ從來ノ施行區域内ニ行ハル、一般ノ法律中刑法ニ關スル規定ヲ領事裁判所管轄區域内ニ適用スル程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十一條 領事ハ其裁判所管轄區域内又ハ其一部ニ對シ領事裁判權ニ服スル者ヲ羈束スヘキ警察令ヲ發シ之ニ違背スル者ヲ拘留ニ處シ十麻以下ノ罰金ヲ科シ物件ヲ沒收スルノ權ヲ有ス此規定ハ遲滯ナク謄寫シテ帝國宰相ニ之ヲ報告スヘシ

帝國宰相ハ領事ノ發シタル警察令ヲ廢止スルノ權ヲ有ス  
警察令並ニ其廢止ノ公布ハ領事館ノ公示慣例ニ依ル但裁判所ノ揭示板ニハ必ス之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第七章 刑事裁判手續ニ關スル特別規定

第五十二條 刑事事件ニ付テハ領事ハ區裁判所判事及ヒ地方裁判所刑事部長ノ職務ヲ行フ

第五十三條 送達呼出決定及ヒ命令並ニ刑ノ執行ハ領事之ヲ行フ

第五十四條 準備手續ニ付テハ刑事訴訟法第六十五條第二項ノ場合ニ於テモ證人又ハ鑑定人宣誓ヲ許ス

刑事訴訟法第二百二十六條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五十五條 領事ニ於テ大審院又ハ陪審裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪ノ嫌疑アルコトヲ探知シタルトキハ刑事訴追ニ必要ナル保全處分ヲ爲シ且遲滯ノ虞アリ若クハ刑事訴訟法第六十五條第二項ノ要件ヲ具備スル場合ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲シタル後一件書類ヲ獨逸國管轄裁判所檢事ニ送付シ管轄裁判所檢事ナキトキハ檢事總長ニ之ヲ送付スヘシ但此場合ニ於テハ大審院管轄裁判所ヲ指定ス

第五十六條 領事裁判所又ハ領事ノ管轄ニ屬スル犯罪アルトキハ領事ハ檢事ニ